預言者伝（スィーラ）

第 7 巻

マディーナへのヒジュラ

サウルの洞窟からクバーへ：歴史を変えた旅



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 7 巻

マディーナへのヒジュラ

サウルの洞窟からクバーへ：歴史を変えた旅 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

وَقُل رَّبِّ أَدْخِلْنِي مُدْخَلَ صِدْقٍ وَأَخْرِجْنِي مُخْرَجَ صِدْقٍ وَاجْعَل لِّي مِن لَّدُنكَ سُلْطَانًا نَّصِيرًا

「（祈って）言え、『主よ、わたしを正しい入り方で入らせ、また正しい出方で出させ、あなたの御許から、助けとなる権威をわたしに授けて下さい。』」

夜の旅章 17:80

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

故郷から追われたご自分の使徒を助け、「二人のうちの一人」として洞窟にいたかれに安らぎを下されたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 7 巻は、マディーナへのヒジュラ（移住）を語ります。アブー・バクルの家での灼熱の真昼から、サウルの洞窟での三夜、海岸沿いの道をたどる旅、そしてクバーでの歓迎と預言者のモスクの建設までを扱います。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**丘の頂にある岩の洞窟の内側から眺めた風景**で、**夜が明け始める**時刻です。洞窟の入口からは、**広大な砂漠の谷**と、北へ遠く曲がりくねって続く**土ぼこりの道**が見え、その道は地平線の**二つの黒い岩地**のあいだにある**緑のナツメヤシのオアシス**へと向かっています。

洞窟は、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルが三夜身を隠したサウルの洞窟を表しています。曲がりくねった道はヒジュラの長い旅を、二つの黒い岩地のあいだにあるナツメヤシのオアシスはマディーナを表しています。これは、使徒が夢で見せられた「二つの黒い岩地のあいだにある、ナツメヤシの茂る土地」（『サヒーフ・ブハーリー』3905）のとおりです。夜明けの光は新しい時代の始まり、すなわちヒジュラ暦を象徴しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

マディーナへのヒジュラ — 序論

1. アカバの後：なぜヒジュラなのか — 婦人章 4:100；蜜蜂章 16:41

2. 先に旅立った人びと — スィーラの注

3. 待ち続けたアブー・バクル — 『サヒーフ・ブハーリー』3905

4. ダール・アン＝ナドワの陰謀 — 戦利品章 8:30

5. 包囲の夜：寝床のアリー — 伝承の評価

6. いつもと違う真昼 — 『サヒーフ・ブハーリー』3905

7. 「二本の帯の人」アスマー — 『サヒーフ・ブハーリー』3907

8. サウルの洞窟：「アッラーはわたしたちと共に」 — 悔悟章 9:40；ブハーリー 3653

9. クモとハト：何が真正か — 伝承の評価

10. ヒジュラのチーム — 図；表

11. 海岸の道と羊飼い — 『サヒーフ・ブハーリー』3615

12. スラーカ・ブン・マーリク — 『サヒーフ・ブハーリー』3906

13. ウンム・マアバドの天幕 — 伝承の評価

14. ハッラでの待ちわび — 『サヒーフ・ブハーリー』3906

15. 「この人が私に道を示してくれる」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3911

16. クバー：最初のモスク — 悔悟章 9:108

17. アブー・アイユーブの家 — 『サヒーフ・ブハーリー』3932

18. 預言者のモスクの建設 — 表

19. マディーナの熱病と預言者の祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』3926

20. ヒジュラ暦 — 『サヒーフ・ブハーリー』3934

21. 有名な物語とその位置づけ — 図；表

22. イスラーム以前のヤスリブ — イムラーン家章 3:103；『サヒーフ・ブハーリー』3777

23. ヒジュラの道筋の場所 — 距離の表

24. ヒジュラの人物 — 表

25. ヒジュラの年表 — 表

26. ヒジュラについてのよくある質問 — 12 の質問

27. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

マディーナへのヒジュラ

『預言者伝（スィーラ）』第6巻は、**第二次アカバの誓い**で終わりました。ヤスリブの人びとは、自分の家族を守るのと同じようにアッラーの使徒 ﷺ を守ると誓ったのです。扉は開かれました。この第 7 巻は、**ヒジュラ**――アッラーの使徒 ﷺ と教友たちがマッカからマディーナへ移った出来事――を語ります。それは**イスラーム暦の始まり**となった旅です。

ヒジュラの物語は、『**サヒーフ・ブハーリー**』に非常に詳しく記録されています。とりわけ、父アブー・バクルの家での出来事を自ら目撃したアーイシャ رضى الله عنها の長いハディースによってです。そのほかにも、クモ、ハト、ウンム・マアバド、そして歌「ターラアル・バドル」など多くの有名な物語があり、本書ではその伝承の位置づけを**一つずつ評価**しています。

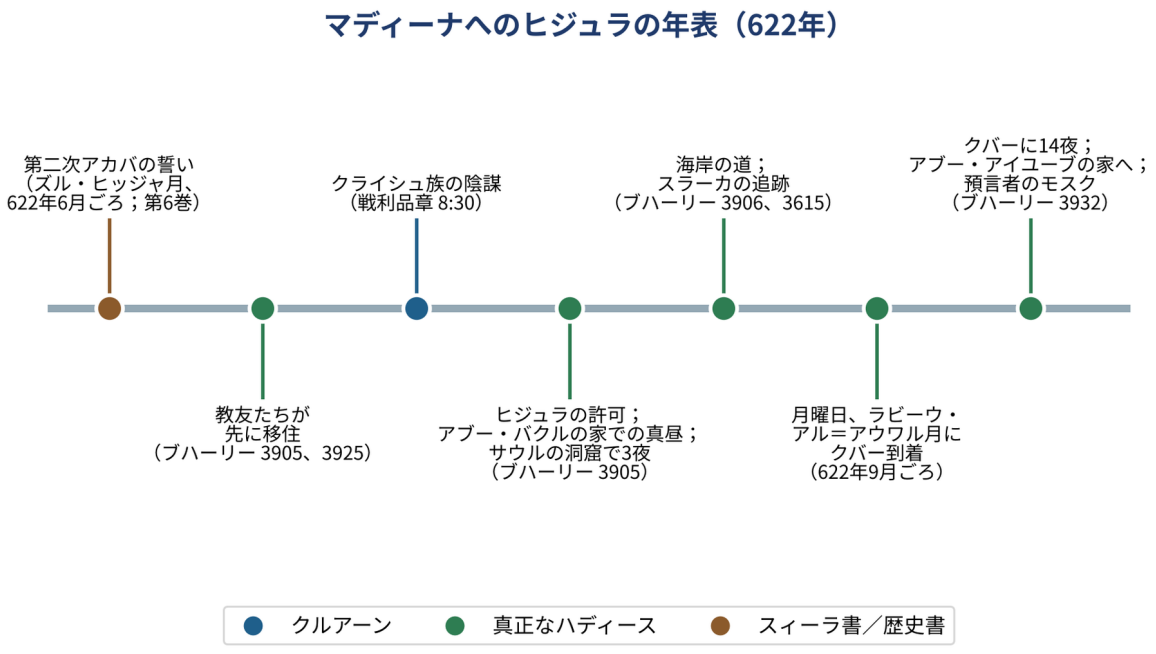


図 1：マディーナへのヒジュラの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

アカバの後：なぜヒジュラなのか

マッカでの十三年間、ムスリムは拷問され、ボイコットされ、侮辱されました。多くの人がすでにアビシニアへ移住していました（第4巻）。第二次アカバの誓いの後、アッラーはイスラームとその使徒を受け入れる用意のある**一つの故郷**を開かれました。ヒジュラは逃亡ではなく、**築くための移住**なのです。

アッラーは移住する者について仰せられます。「**アッラーの道のために移住する者は**」（イスラームを守り、打ち立てるために）、地上に多くの避難所と豊かな糧を見いだすであろう、と『タフスィール・イブン・カスィール』4:100。

アッラーはまた、現世と来世での報いを約束されています。「**われは現世で、必ず良い住まいを与える**」。イブン・カスィールは、この節がマッカで迫害された後に移住した教友たちについて啓示されたと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』16:41。

ヒジュラの意味

アッラーの使徒 ﷺ は、ヒジュラの価値は**意図**によって決まると教えられました。「**行いはすべて意図によるものである……アッラーとその使徒のために移住した者の移住は、アッラーとその使徒のためのものである**」（『サヒーフ・ブハーリー』1）。また、こうも言われました。「**移住者とは、アッラーが禁じたものを捨てる者である**」（『サヒーフ・ブハーリー』10）。

ヒジュラの種類	説明
場所のヒジュラ	崇拝を妨げられる場所から安全な場所へ移ること――アビシニアやマディーナへの移住のように。
行いのヒジュラ	罪とアッラーが禁じたものを捨てること――いつの時代のどのムスリムにも開かれている。

ヒジュラの種類	説明
心のヒジュラ	アッラー以外のものに向けていた愛と希望を、アッラーへと移すこと。

先に旅立った人びと

アッラーの使徒 ﷺ は、一人で移住されたのでも、最初に移住されたのでもありません。教友たちに、少人数の集団で、ひそかに先に出発するよう命じられたのです。アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما はこう伝えています。最初にマディーナに着いたのは**ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンム・マクトゥーム**で、次に**ビラール、サアド、アンマール・ブン・ヤースィル**、次に**ウマル・ブン・アル＝ハッターブが二十人の教友とともに**到着し、その後にようやく預言者 ﷺ が来られた（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

スィーラの注：ウンム・サラマ――アブタフで泣いた一年

イブン・イスハークは**ウンム・サラマ** رضي الله عنها からこう伝えています。夫アブー・サラマが彼女と子どもを連れて移住しようとしたとき、彼女の一族（マフズーム族のムギーラ家）が彼女を奪い取り、アブー・サラマの一族は子どもを奪い取りました。アブー・サラマは一人で移住を続けました。

ウンム・サラマは、毎朝アブタフの地へ出て夕方まで泣き続け、それが**一年近く**続いたので、ついに一族が哀れんで彼女の旅立ちを許した、と語っています。子どもは返され、当時まだイスラームに入っていなかった**ウスマーン・ブン・タルハ**が、礼儀正しく彼女をクバーまで送り届け、マッカへ戻っていきました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』、教友たちのヒジュラの章。

スィーラの注：スハイブ・アッ＝ルーミー――「よい取引をした」

スィーラ書やタフスィール書によれば、**スハイブ・ブン・スィナーン**は、財産を持って移住することをクライシュ族に阻まれました。かれは自分の身の代として全財産をかれらに差し出しました。マディーナに着くと、アッラーの使徒 ﷺ は「**よい取引をしたな、アブー・ヤフヤーよ**」と言われたといいます。

一部の注釈者は、これを「アッラーの御喜びを願って、自分を売った者」（雌牛章2:207）という節と結びつけています。この話の伝承経路には異論がありますが、スィーラ書ではよく知られています。

参照：

イブン・カスィール『タフスィール』2:207。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/207

教訓：指導者は**まず従う者たちの安全を確保**します。アッラーの使徒 ﷺ は、教友の大半が出発するまで、最も危険な場所であるマッカにとどまられました。

待ち続けたアブー・バクル

アーイシャ رضى الله عنها のハディースによれば、アッラーの使徒 ﷺ は**夢の中で移住の地を見せられました**。それは二つの黒い岩地（ハッラ）のあいだにある、ナツメヤシの茂る土地でした。これこそマディーナで、東と西を二つの黒い溶岩原に挟まれています。

アブー・バクル رضى الله عنه は移住の支度をしましたが、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから**」。アブー・バクルはその意味を悟りました――自分が使徒のお供をするのだ、と。かれは**出発を控え**、**四か月**のあいだ、長旅に耐えられるよう二頭のラクダにサムルの木の葉を食べさせ続けました。

真の教友の備え

アブー・バクルの行動	教訓
自分の移住を延期した	自分の安全よりもアッラーの使徒 ﷺ を優先した。
二頭のラクダに四か月えさを与えた	その時が来る前の周到な準備。
ラクダを無償で差し出した	頼まれる前からの気前のよさ。
家族を手伝いに備えさせた	家族全員が宣教に関わった。

アッラーの使徒 ﷺ は、そのラクダを**代金を払って**受け取られました。学者たちは、使徒がヒジュラの報奨を完全なものとするため、**すべて自分の財産で**移住したいと望まれたのだと説明しています――アブー・バクルが財産によって使徒に最も尽くした人物であったにもかかわらず（『サヒーフ・ブハーリー』3654）。

ダール・アン＝ナドワの陰謀

教友たちが次々と移住していき、マディーナが避難所になったことを知ると、クライシュ族は恐れを抱きました。クルアーンは、かれらが話し合った三つの選択肢を記録しています。

アッラーは仰せられます。「**かれらは策謀したが、アッラーもまた計略をめぐらせられた**」。アッラーこそ最も優れた計略者であられるからです『タフスィール・イブン・カスィール』8:30。

クライシュ族の案（8:30）	意味
「拘禁し」	使徒を投獄し、鎖につなぐ。
「殺害し」	使徒を殺す――最終的に選ばれた案。
「放逐しよう」	使徒をマッカから追放する。

スィーラの注：ダール・アン＝ナドワでの会議

イブン・イスハークによれば、クライシュ族の有力者たちは、かれらの会議所である**ダール・アン＝ナドワ**に集まりました。投獄と追放の案が退けられた後、**アブー・ジャフル**は、各部族から屈強な若者を一人ずつ選び、全員で一斉に使徒を打つことを提案しました。そうすれば使徒の血は**すべての部族に分散され**、アブド・マナーフ家は報復を求められなくなる、というのです。

イブン・イスハークはまた、**イブリースがナジュド出身の老人に化けて現れ**、その案を支持したと述べています。この詳細はスィーラ書にのみあり、**真正なハディース集には見られません。**

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』、アッラーの使徒 ﷺ のヒジュラの章。

イブン・カスィール『タフスィール』8:30。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/30

教訓：人間の策略は常に**アッラーの計画のもとに**あります。クライシュ族が暗殺を企てていたとき、アッラーは**一つの国**を計画しておられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

包囲の夜：寝床のアリー

非常によく知られた話によれば、包囲の夜、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضي الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ の寝床で、使徒の布をかぶって眠り、そのあいだクライシュ族の若者たちは家の外で待ち構えていました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらに気づかれずに外へ出られました。

スィーラの注：寝床のアリーの伝承の評価

この話は、**イマーム・アフマドが『ムスナド』に**、イブン・アッバース رضي الله عنهما から、戦利品章 8:30 の注釈として伝えています。同じ伝承には洞窟の入口の**クモ**も出てきます（第 9 章参照）。

評価： イブン・ハジャル（『ファトフ・アル＝バーリー』）とイブン・カスィール（『始まりと終わり』）は、その伝承経路を**ハサン（良好）**と評価しています。アフマド・シャーキルは伝承経路に異論があると述べ、アルバーニーと『ムスナド』の校訂者たちは**ダイーフ（弱い）**と評価しています。したがって、これは**見解が分かれる**伝承です。

スィーラ書（イブン・イスハーク）はまた、アリーが**三日間**マッカにとどまり、人びとがアッラーの使徒 ***memulangkan barang-barang amanah*** に預けていた預かり物を返してから、マディーナへ後を追ったと述べています。

参照：
『ムスナド・アフマド』3251；イブン・カスィール『始まりと終わり』3/222。

敵への誠実

この話で最も心を打つのは、**預かり物**のくだりです。使徒に敵対していたマッカの人びとは、それでも**自分たちの財産を使徒に預けていました。**使徒が**アル＝アミーン（信頼できる者）**であることを知っていたからです（第 2 巻）。かれらが使徒の暗殺を企てたその夜、使徒はかれらの財産が確実に返されるよう手配されたのです。

スィーラの注：砂とヤースィーン章

イブン・イスハークによれば、アッラーの使徒 ﷺ は若者たちのあいだを通り抜けながら、かれらの頭に砂をまき、ヤースィーン章の冒頭から第 9 節「そのうえかれらに覆いをした。それでかれらは見ることも出来ない」までを読誦されました。この話は**スィーラ書にのみ**あり、伝承経路は確かではありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

いつもと違う真昼

ヒジュラについて**最も真正で詳しい**話は、アーイシャ رضى الله عنها が伝えたものです。当時かのじょはアブー・バクルの家の少女で、アッラーの使徒 ﷺ が重大な知らせを持って来られた瞬間を自ら目撃しました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3905 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، قَالَ ابْنُ شِهَابٍ فَأَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ لَمْ أَعْقِلْ أَبَوَىَّ قَطُّ إِلاَّ وَهُمَا يَدِينَانِ الدِّينَ، وَلَمْ يَمُرَّ عَلَيْنَا يَوْمٌ إِلاَّ يَأْتِينَا فِيهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم طَرَفَىِ النَّهَارِ بُكْرَةً وَعَشِيَّةً، فَلَمَّا ابْتُلِيَ الْمُسْلِمُونَ خَرَجَ أَبُو بَكْرٍ مُهَاجِرًا نَحْوَ أَرْضِ الْحَبَشَةِ، حَتَّى بَلَغَ بَرْكَ الْغِمَادِ لَقِيَهُ ابْنُ الدَّغِنَةِ وَهْوَ سَيِّدُ الْقَارَةِ. فَقَالَ أَيْنَ تُرِيدُ يَا أَبَا بَكْرٍ فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ أَخْرَجَنِي قَوْمِي، فَأُرِيدُ أَنْ أَسِيحَ فِي الأَرْضِ وَأَعْبُدَ رَبِّي. قَالَ ابْنُ الدَّغِنَةِ فَإِنَّ مِثْلَكَ يَا أَبَا بَكْرٍ لاَ يَخْرُجُ وَلاَ يُخْرَجُ، إِنَّكَ تَكْسِبُ الْمَعْدُومَ، وَتَصِلُ الرَّحِمَ وَتَحْمِلُ الْكَلَّ، وَتَقْرِي الضَّيْفَ، وَتُعِينُ عَلَى نَوَائِبِ الْحَقِّ، فَأَنَا لَكَ جَارٌ، ارْجِعْ وَاعْبُدْ رَبَّكَ بِبَلَدِكَ. فَرَجَعَ وَارْتَحَلَ مَعَهُ ابْنُ الدَّغِنَةِ، فَطَافَ ابْنُ الدَّغِنَةِ عَشِيَّةً فِي أَشْرَافِ قُرَيْشٍ، فَقَالَ لَهُمْ إِنَّ أَبَا بَكْرٍ لاَ يَخْرُجُ مِثْلُهُ وَلاَ يُخْرَجُ، أَتُخْرِجُونَ رَجُلاً يَكْسِبُ الْمَعْدُومَ، وَيَصِلُ الرَّحِمَ، وَيَحْمِلُ الْكَلَّ، وَيَقْرِي الضَّيْفَ، وَيُعِينُ عَلَى نَوَائِبِ الْحَقِّ فَلَمْ تُكَذِّبْ قُرَيْشٌ بِجِوَارِ ابْنِ الدَّغِنَةِ، وَقَالُوا لاِبْنِ الدَّغِنَةِ مُرْ أَبَا بَكْرٍ فَلْيَعْبُدْ رَبَّهُ فِي دَارِهِ، فَلْيُصَلِّ فِيهَا وَلْيَقْرَأْ مَا شَاءَ، وَلاَ يُؤْذِينَا بِذَلِكَ، وَلاَ يَسْتَعْلِنْ بِهِ، فَإِنَّا نَخْشَى أَنْ يَفْتِنَ نِسَاءَنَا وَأَبْنَاءَنَا. فَقَالَ ذَلِكَ ابْنُ الدَّغِنَةِ لأَبِي بَكْرٍ، فَلَبِثَ أَبُو بَكْرٍ بِذَلِكَ يَعْبُدُ رَبَّهُ فِي دَارِهِ، وَلاَ يَسْتَعْلِنُ بِصَلاَتِهِ، وَلاَ يَقْرَأُ فِي غَيْرِ دَارِهِ، ثُمَّ بَدَا لأَبِي بَكْرٍ فَابْتَنَى مَسْجِدًا بِفِنَاءِ دَارِهِ وَكَانَ يُصَلِّي فِيهِ وَيَقْرَأُ الْقُرْآنَ، فَيَنْقَذِفُ عَلَيْهِ نِسَاءُ الْمُشْرِكِينَ وَأَبْنَاؤُهُمْ، وَهُمْ يَعْجَبُونَ مِنْهُ، وَيَنْظُرُونَ إِلَيْهِ، وَكَانَ أَبُو بَكْرٍ رَجُلاً بَكَّاءً، لاَ يَمْلِكُ عَيْنَيْهِ إِذَا قَرَأَ الْقُرْآنَ، وَأَفْزَعَ ذَلِكَ أَشْرَافَ قُرَيْشٍ مِنَ الْمُشْرِكِينَ، فَأَرْسَلُوا إِلَى ابْنِ الدَّغِنَةِ، فَقَدِمَ عَلَيْهِمْ. فَقَالُوا إِنَّا كُنَّا أَجَرْنَا أَبَا بَكْرٍ بِجِوَارِكَ، عَلَى أَنْ يَعْبُدَ رَبَّهُ فِي دَارِهِ،

فَقَدْ جَاوَزَ ذَلِكَ، فَابْتَنَى مَسْجِدًا بِفِنَاءِ دَارِهِ، فَأَعْلَنَ بِالصَّلاَةِ وَالْقِرَاءَةِ فِيهِ، وَإِنَّا قَدْ خَشِينَا أَنْ يَفْتِنَ نِسَاءَنَا وَأَبْنَاءَنَا فَانْهَهُ، فَإِنْ أَحَبَّ أَنْ يَقْتَصِرَ عَلَى أَنْ يَعْبُدَ رَبَّهُ فِي دَارِهِ فَعَلَ، وَإِنْ أَبَى إِلاَّ أَنْ يُعْلِنَ بِذَلِكَ فَسَلْهُ أَنْ يَرُدَّ إِلَيْكَ ذِمَّتَكَ، فَإِنَّا قَدْ كَرِهْنَا أَنْ نُخْفِرَكَ، وَلَسْنَا مُقِرِّينَ لأَبِي بَكْرٍ الاِسْتِعْلاَنَ. قَالَتْ عَائِشَةُ فَأَتَى ابْنُ الدَّغِنَةِ إِلَى أَبِي بَكْرٍ فَقَالَ قَدْ عَلِمْتَ الَّذِي عَاقَدْتُ لَكَ عَلَيْهِ، فَإِمَّا أَنْ تَقْتَصِرَ عَلَى ذَلِكَ، وَإِمَّا أَنْ تَرْجِعَ إِلَىَّ ذِمَّتِي، فَإِنِّي لاَ أُحِبُّ أَنْ تَسْمَعَ الْعَرَبُ أَنِّي أُخْفِرْتُ فِي رَجُلٍ عَقَدْتُ لَهُ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ فَإِنِّي أَرُدُّ إِلَيْكَ جِوَارَكَ وَأَرْضَى بِجِوَارِ اللَّهِ عَزَّ وَجَلَّ. وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ بِمَكَّةَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِلْمُسْلِمِينَ إِنِّي أُرِيتُ دَارَ هِجْرَتِكُمْ ذَاتَ نَخْلٍ بَيْنَ لاَبَتَيْنِ. وَهُمَا الْحَرَّتَانِ، فَهَاجَرَ مَنْ هَاجَرَ قِبَلَ الْمَدِينَةِ، وَرَجَعَ عَامَّةُ مَنْ كَانَ هَاجَرَ بِأَرْضِ الْحَبَشَةِ إِلَى الْمَدِينَةِ، وَتَجَهَّزَ أَبُو بَكْرٍ قِبَلَ الْمَدِينَةِ، فَقَالَ لَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى رِسْلِكَ، فَإِنِّي أَرْجُو أَنْ يُؤْذَنَ لِي. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ وَهَلْ تَرْجُو ذَلِكَ بِأَبِي أَنْتَ قَالَ نَعَمْ. فَحَبَسَ أَبُو بَكْرٍ نَفْسَهُ عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لِيَصْحَبَهُ، وَعَلَفَ رَاحِلَتَيْنِ كَانَتَا عِنْدَهُ وَرَقَ السَّمُرِ وَهُوَ الْخَبَطُ أَرْبَعَةَ أَشْهُرٍ. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ قَالَ عُرْوَةُ قَالَتْ عَائِشَةُ فَبَيْنَمَا نَحْنُ يَوْمًا جُلُوسٌ فِي بَيْتِ أَبِي بَكْرٍ فِي نَحْرِ الظَّهِيرَةِ قَالَ قَائِلٌ لأَبِي بَكْرٍ هَذَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مُتَقَنِّعًا - فِي سَاعَةٍ لَمْ يَكُنْ يَأْتِينَا فِيهَا - فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ فِدَاءٌ لَهُ أَبِي وَأُمِّي، وَاللَّهِ مَا جَاءَ بِهِ فِي هَذِهِ السَّاعَةِ إِلاَّ أَمْرٌ. قَالَتْ فَجَاءَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَاسْتَأْذَنَ، فَأُذِنَ لَهُ فَدَخَلَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لأَبِي بَكْرٍ أَخْرِجْ مَنْ عِنْدَكَ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ إِنَّمَا هُمْ أَهْلُكَ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ فَإِنِّي قَدْ أُذِنَ لِي فِي الْخُرُوجِ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ الصَّحَابَةُ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَعَمْ. قَالَ أَبُو بَكْرٍ فَخُذْ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ إِحْدَى رَاحِلَتَىَّ هَاتَيْنِ. قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالثَّمَنِ. قَالَتْ عَائِشَةُ فَجَهَّزْنَاهُمَا أَحَثَّ الْجِهَازِ، وَصَنَعْنَا لَهُمَا سُفْرَةً فِي جِرَابٍ، فَقَطَعَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ أَبِي بَكْرٍ قِطْعَةً مِنْ نِطَاقِهَا فَرَبَطَتْ بِهِ عَلَى فَمِ الْجِرَابِ، فَبِذَلِكَ سُمِّيَتْ ذَاتَ النِّطَاقِ - قَالَتْ - ثُمَّ لَحِقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ بِغَارٍ فِي جَبَلِ ثَوْرٍ فَكَمَنَا فِيهِ ثَلاَثَ لَيَالٍ،

يَبِيتُ عِنْدَهُمَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي بَكْرٍ وَهُوَ غُلاَمٌ شَابٌّ ثَقِفٌ لَقِنٌ، فَيُدْلِجُ مِنْ عِنْدِهِمَا بِسَحَرٍ، فَيُصْبِحُ مَعَ قُرَيْشٍ بِمَكَّةَ كَبَائِتٍ، فَلاَ يَسْمَعُ أَمْرًا يُكْتَادَانِ بِهِ إِلاَّ وَعَاهُ، حَتَّى يَأْتِيَهُمَا بِخَبَرِ ذَلِكَ حِينَ يَخْتَلِطُ الظَّلاَمُ، وَيَرْعَى عَلَيْهِمَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ مَوْلَى أَبِي بَكْرٍ مِنْحَةً مِنْ غَنَمٍ، فَيُرِيحُهَا عَلَيْهِمَا حِينَ يَذْهَبُ سَاعَةٌ مِنَ الْعِشَاءِ، فَيَبِيتَانِ فِي رِسْلٍ وَهُوَ لَبَنُ مِنْحَتِهِمَا وَرَضِيفِهِمَا، حَتَّى يَنْعِقَ بِهَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ بِغَلَسٍ، يَفْعَلُ ذَلِكَ فِي كُلِّ لَيْلَةٍ مِنْ تِلْكَ اللَّيَالِي الثَّلاَثِ، وَاسْتَأْجَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ رَجُلاً مِنْ بَنِي الدِّيلِ، وَهُوَ مِنْ بَنِي عَبْدِ بْنِ عَدِيٍّ هَادِيًا خِرِّيتًا ـ وَالْخِرِّيتُ الْمَاهِرُ بِالْهِدَايَةِ ـ قَدْ غَمَسَ حِلْفًا فِي آلِ الْعَاصِ بْنِ وَائِلٍ السَّهْمِيِّ، وَهُوَ عَلَى دِينِ كُفَّارِ قُرَيْشٍ فَأَمِنَاهُ، فَدَفَعَا إِلَيْهِ رَاحِلَتَيْهِمَا، وَوَاعَدَاهُ غَارَ ثَوْرٍ بَعْدَ ثَلاَثِ لَيَالٍ بِرَاحِلَتَيْهِمَا صُبْحَ ثَلاَثٍ، وَانْطَلَقَ مَعَهُمَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ وَالدَّلِيلُ فَأَخَذَ بِهِمْ طَرِيقَ السَّوَاحِلِ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ は語った。物心ついたときから両親はすでにイスラームを信仰しており、アッラーの使徒 ﷺ が朝と夕方にかれらの家を訪れない日は一日もなかった。（アブー・バクルがアビシニアへ移住しようとしたことと、イブン・アッ＝ドゥグンナの保護についての冒頭部分は要約する。）アッラーの使徒 ﷺ はムスリムたちに言われた。**「あなたがたの移住の地をわたしは見せられた。二つの黒い岩地のあいだにある、ナツメヤシの茂る土地である」**。そこで多くの人がマディーナへ移住した。アブー・バクルも移住の支度をしたが、アッラーの使徒 ﷺ はかれに言われた。**「待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから」**。アブー・バクルは使徒のお供をするために出発を控え、四か月のあいだ二頭のラクダにサムルの葉を食べさせた。アーイシャは言った。ある日、私たちが灼熱の真昼にアブー・バクルの家に座っていると、ある人が言った。「アッラーの使徒 ﷺ が顔を覆って来られます。いつもは来られない時刻です」。アブー・バクルは言った。「アッラーにかけて、このような時刻に来られるのは重大な用件があるからに違いない」。使徒は許しを求めて入り、言われた。**「あなたのところにいる者を外に出しなさい」**。アブー・バクルは答えた。「ここにいるのはあなたの家族だけです、アッラーの使徒よ」。使徒は言われた。

「**わたしは（移住のために）出発することを許された**」。アブー・バクルは尋ねた。「お供させていただけますか、アッラーの使徒よ」。使徒は答えられた。「**よろしい**」。アブー・バクルは言った。「この二頭のラクダのうち一頭をお受け取りください」。使徒は言われた。「**代金を払って**」。アーイシャは言った。私たちは急いでかれらの旅の支度を整え、革袋に食べ物を入れた。**アスマー・ビント・アビー・バクル**が自分の帯の一部を切り取って袋の口を縛ったので、かのじょは「**帯の人（ザート・アン＝ニターク）**」と呼ばれるようになった。それからアッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは**サウル山**の洞窟にたどり着き、そこに**三夜**とどまった。聡明な若者**アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル**はかれらのもとで夜を過ごし、夜明け前に出て行ったので、朝にはマッカでクライシュ族とともにいて、まるでそこで夜を過ごしたかのようであった。かれは二人に対するあらゆる策略を聞きつけ、暗くなるとそれを伝えた。アブー・バクルが解放した奴隷**アーミル・ブン・フハイラ**は二人の近くで羊を放牧し、イシャーの礼拝の後に羊を連れて来たので、二人は搾りたての乳を飲んで夜を過ごした。アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは、ディール族の一人の男を**熟練した道案内**として雇った。かれはまだクライシュ族の不信仰の宗教を奉じていた。二人はかれを信頼して二頭のラクダを預け、三夜の後にサウルの洞窟で落ち合う約束をした。二人はアーミル・ブン・フハイラとその道案内とともに出発し、道案内は**海岸沿いの道を通ってかれらを導いた**。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← ライス ← ウカイル ← イブン・シハーブ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ と教友たちのマディーナへのヒジュラの章、ハディース第 3905 番。冒頭部分は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3905

注目すべき細部

ハディースの細部	教訓
灼熱の真昼、人びとが休む時刻に来られた	道が人けのない時刻を選んだ――賢明な計画。
顔を覆って来られた	クライシュ族の見張りの目から身を隠した。
「あなたのところにいる者を外に出しなさい」	秘密を守る――知る必要のある者だけに知らせる。
アブー・バクルが喜びのあまり泣いた（イブン・イスハークの伝承）	犠牲を払う機会を、重荷ではなく恵みと受け止めた。
「代金を払って」	自分の財産で移住し、他人に負担をかけない。
多神教徒の道案内	誠実で熟練した非ムスリムの助けを借りてよい。

アーイシャは日付を述べていませんが、スィーラ書によれば、使徒は預言者としての使命の第 14 年**サファル月の終わり**に出発し、**ラビーウ・アル＝アウワル月**にクバーに到着されました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「二本の帯の人」アスマー

アブー・バクルの家族には、一人ひとりに役割がありました。アーイシャの姉**アスマー・ビント・アビー・バクル** رضى الله عنها は、旅の食料を用意する係でした。食料の袋を縛るひもがなかったとき、かのじょはすばやく行動しました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3907 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ أَبِيهِ، وَفَاطِمَةَ، عَنْ أَسْمَاءَ، رضى الله عنها صَنَعْتُ سُفْرَةً لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَبِي بَكْرٍ حِينَ أَرَادَا الْمَدِينَةَ، فَقُلْتُ لأَبِي مَا أَجِدُ شَيْئًا أَرْبُطُهُ إِلاَّ نِطَاقِي. قَالَ فَشُقِّيهِ. فَفَعَلْتُ، فَسُمِّيَتْ ذَاتَ النِّطَاقَيْنِ.

訳：

アスマー رضى الله عنها は言った。「**預言者 ﷺ とアブー・バクルがマディーナへ向かおうとしたとき、私は二人の旅の食料を用意した。私は父に言った。『これを縛るものが、私の帯のほかに何もありません』。父は言った。『それを（二つに）裂きなさい』。私がそのとおりにしたので、私は『二本の帯の人（ザート・アン＝ニターカイン）』と呼ばれるようになった**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム ← 父ウルワ と ファーティマ・ビント・ムンズィル ← アスマー رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3907 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3907

アーイシャのハディース（第 3905 番）は「**帯の人（ザート・アン＝ニターク）**」と言い、アスマー自身は「**二本の帯の人（ザート・アン＝ニターカイン）**」と言っています。帯の**二本**とは、一本は身に着けるもの、もう一本は食料を縛るためのものです。どちらも正しく、表現の違いにすぎません。

スィーラの注：アスマーの勇気

イブン・イスハークはアスマーからこう伝えています。使徒とアブー・バクルが出発した後、**アブー・ジャフル**を含むクライシュ族の一団がかのじょの家に来ました。父の居場所は知らないとアスマーが答えると、アブー・ジャフルは**かのじょの顔を平手で打ち**、耳飾りが飛んだといいます。

イブン・イスハークはまた、目が見えずまだイスラームに入っていなかった祖父**アブー・クハーファ**が、アブー・バクルが全財産を持ち出したのではないかと心配したと述べています。アスマーは金の置き場に**石**を置いて布で覆い、祖父の手をその上に置かせて安心させたのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

教訓：イスラーム史上最大の出来事において、女性は**重要な役割**を担いました。スィーラ書によれば、アスマーは当時身ごもっていましたが、それでも食料を持ってサウルの洞窟まで登ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サウルの洞窟：「アッラーはわたしたちと共に」

アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは、まっすぐ北（マディーナの方向）へ向かったのではなく、**南**の**サウル山**へ向かいました。クライシュ族の追っ手は、まずマディーナへの道を捜すはずだからです。二人はそこで洞窟に**三夜**身を隠しました。アッラーはその瞬間をクルアーンに記録されています。

悔悟章 9:40

إِلَّا تَنصُرُوهُ فَقَدْ نَصَرَهُ ٱللَّهُ إِذْ أَخْرَجَهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ثَانِىَ ٱثْنَيْنِ إِذْ هُمَا فِى ٱلْغَارِ إِذْ يَقُولُ لِصَٰحِبِهِۦ لَا تَحْزَنْ إِنَّ ٱللَّهَ مَعَنَا ۖ فَأَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَيْهِ وَأَيَّدَهُۥ بِجُنُودٍ لَّمْ تَرَوْهَا وَجَعَلَ كَلِمَةَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ٱلسُّفْلَىٰ ۗ وَكَلِمَةُ ٱللَّهِ هِىَ ٱلْعُلْيَا ۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿٤٠﴾

仮令あなたがたがかれ（使徒）を助けず、不信心の者たちが、かれを追放しても、アッラーは必ずかれを助けられる。かれは、只 1 人（の同僚）と、2 人で洞窟にいた時、その同僚に向かって『心配してはならない。アッラーはわたしたちと共におられる。』と言ったその時アッラーは かれの安らぎを、かれ（アブー・バクル）に与え、あなたがたには見えないが、（天使の）軍勢でかれを強められた。また不信者たちの言葉を最も低いものになされ、アッラーの御言葉をも高められた。本当にアッラーは偉力ならびなく英明であられる。

訳：三田了一 — quran.com/9:40

「二人の三人目がアッラーである者を、どう思うのか」

追っ手は洞窟の入口までやって来ました。アブー・バクル自身が、その緊迫した瞬間を語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3653 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ سِنَانٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامٌ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، عَنْ أَبِي بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قُلْتُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَنَا فِي الْغَارِ لَوْ أَنَّ أَحَدَهُمْ نَظَرَ تَحْتَ قَدَمَيْهِ لأَبْصَرَنَا. فَقَالَ مَا ظَنُّكَ يَا أَبَا بَكْرٍ بِاثْنَيْنِ اللَّهُ ثَالِثُهُمَا.

訳：

アブー・バクル رضى الله عنه は言った。洞窟の中にいたとき、私は預言者 ﷺ に言った。「もしかれらの一人が自分の足もとを見下ろせば、私たちが見えてしまうでしょう」。預言者は言われた。**「アブー・バクルよ、二人の三人目がアッラーである、その二人をあなたはどう思うのか」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・スィナーン ← ハンマーム ← サービト ← アナス ← アブー・バクル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ハディース第 3653 番。ムスリム（第 2381 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3653

使徒の言葉は、**「心配してはならない。アッラーはわたしたちと共におられる」**という節と一致しています。イブン・カスィールは、ここでの**アッラーが共におられること**とは特別な同伴――援助、保護、支え――であり、ご自分の使徒とその同僚に向けられたものだと説明しています『タフスィール・イブン・カスィール』9:40。

アブー・バクルの心配

アブー・バクルは**自分の身を案じていたのではありません**。学者たちによれば、かれが心配していたのは**アッラーの使徒** ﷺ の安全と宣教の将来でした。この節の「**その同僚**」という呼び名は、アブー・バクルが**洞窟でのアッラーの使徒** ﷺ **の同僚**であったことのクルアーン上の証拠であり、クルアーンの中で教友であることがはっきり述べられている唯一の人物なのです。

9:40 の言葉	教訓
「2 人で洞窟にいた時」（二人のうちの一人）	わずか二人がクライシュ族全体に立ち向かった――しかしアッラーが共におられた。
「心配してはならない」	指導者の落ち着きが、従う者を落ち着かせる。
「アッラーはかれの安らぎを与え」	安らぎ（サキーナ）はアッラーの賜物であり、人間の策略の産物ではない。
「あなたがたには見えないが、（天使の）軍勢」	アッラーの助けは、予想もしない形でやって来る。
「アッラーの御言葉をも高められた」	ヒジュラの最終的な結果：イスラームの勝利。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クモとハト：何が真正か

ほとんどすべてのムスリムの子どもが、サウルの洞窟の入口で**クモが巣を張り**、**つがいのハトが卵を産んだ**ので、クライシュ族は中に誰もいないと思った、という話を聞いたことがあるでしょう。この話の位置づけはどうなのでしょうか。

物語	出典と評価
洞窟の入口にクモが巣を張った	『ムスナド・アフマド』3251（イブン・アッバース）。イブン・ハジャルとイブン・カスィール：伝承経路はハサン。アルバーニーと『ムスナド』の校訂者：ダイーフ。**見解が分かれる。**
洞窟の入口で二羽のハトが卵を産んだ	イブン・アサーキル。イブン・カスィールは、この伝承経路では「ガリーブ・ジッダン」（非常に孤立した伝承）と述べた。**弱い。**
アブー・バクルの言葉：「もしかれらが足もとを見下ろせば……」	『サヒーフ・ブハーリー』3653；『サヒーフ・ムスリム』2381。**真正（サヒーフ）。**

アルバーニーは、その話がどれほど有名であっても、洞窟のクモとハトについて**真正なハディースはない**と書いています。一方、イブン・ハジャルとイブン・カスィールはクモの伝承をハサンとして受け入れています。したがって、クモの話は**その位置づけを説明したうえで**語ることができますが、ハトの話を事実として語るべきではありません。

確かなこと：アッラーの守り

確かなのは、クルアーンと真正なハディースが述べていることです。追っ手は**洞窟の真上に立ち**、足もとを見下ろせば見えるほどだったのに、**アッラーがかれらの目をふさがれた**のです。本当の奇跡は、アッラーの使徒 ﷺ の落ち着きと、アッラーの約束「**アッラーはわたしたちと共におられる**」にあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラのチーム

アーイシャのハディースは、ヒジュラが**綿密に計画されたチームワーク**であったことを示しています。一人ひとりに、その能力に合った任務が与えられました。

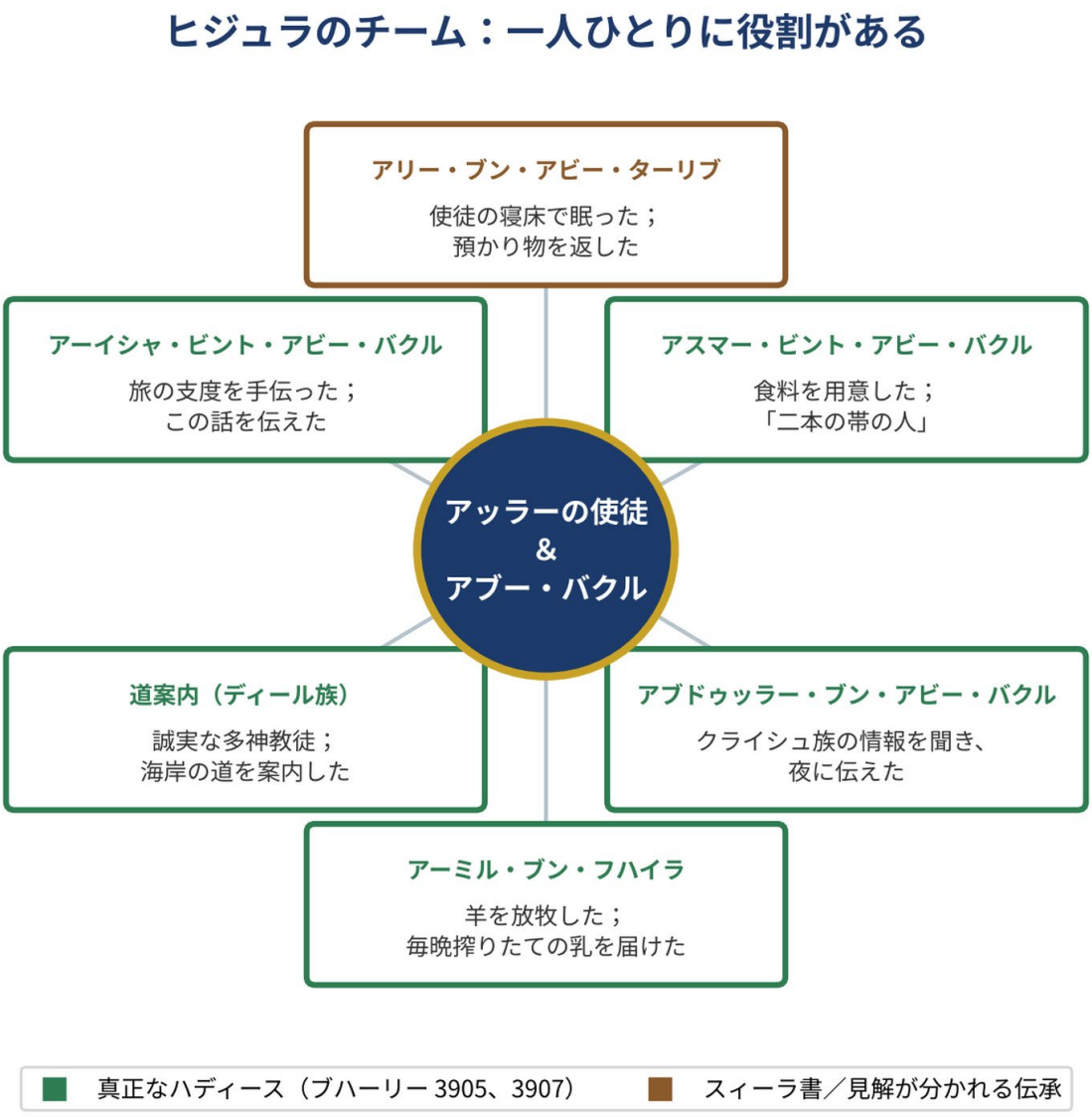


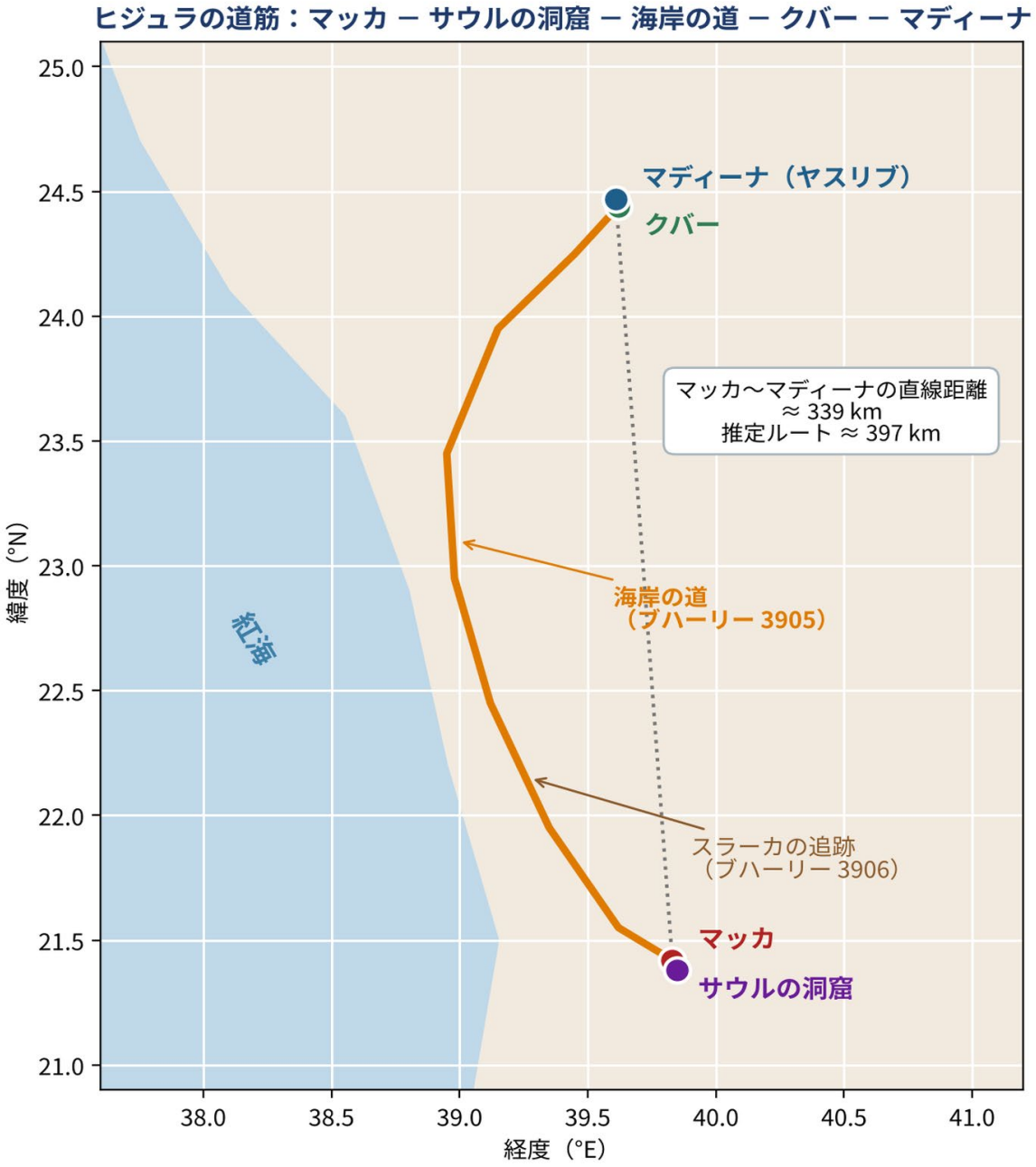
図 2：ヒジュラのチームとそれぞれの役割。

人物	役割と出典
アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル	聡明な若者。洞窟で夜を過ごし、夜明け前に帰った。クライシュ族の策略を聞き、夜に伝えた（ブハーリー 3905）。
アーミル・ブン・フハイラ	アブー・バクルが解放した奴隷。羊を洞窟まで放牧し、搾りたての乳を届けた（ブハーリー 3905）。スィーラ書：羊がアブドゥッラーの足跡を消した。
アスマー・ビント・アビー・バクル	食料を用意した。二本の帯（ブハーリー 3905、3907）。
ディール族の道案内	誠実で熟練した多神教徒。ラクダを預かり、海岸の道を案内した（ブハーリー 3905）。スィーラ書はかれをアブドゥッラー・ブン・ウライキトと呼ぶ。
アリー・ブン・アビー・ターリブ	使徒の寝床で眠り、預かり物を返した（伝承は見解が分かれる。スィーラ書）。

教訓：**タワックル（アッラーへの信頼）は計画しないことを意味しません。**アッラーの使徒 ﷺ は誰よりもアッラーを信頼していた人でしたが、時刻、方角、食料、情報収集、足跡の隠蔽、道案内と、あらゆる細部を計画されました。すべての努力を尽くした後に、はじめて言われたのです。「**アッラーはわたしたちと共におられる**」

海岸の道と羊飼い

三夜の後、道案内が二頭のラクダを連れて来て、四人は出発しました――アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、アーミル・ブン・フハイラ、そして道案内です。かれらはふつうの隊商路ではなく、めったに人の通らない**海岸沿いの道**を進みました。



概略図。実際の道筋は確定できない。座標と海岸線は概算。

図 3：マッカからマディーナへのヒジュラの道筋（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

岩陰と羊飼いの乳

アブー・バクルは、その旅で起きた出来事をアーズィブとその息子アル＝バラーに語りました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3615 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يَزِيدَ بْنِ إِبْرَاهِيمَ أَبُو الْحَسَنِ الْحَرَّانِيُّ، حَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ مُعَاوِيَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، سَمِعْتُ الْبَرَاءَ بْنَ عَازِبٍ، يَقُولُ جَاءَ أَبُو بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ إِلَى أَبِي فِي مَنْزِلِهِ، فَاشْتَرَى مِنْهُ رَحْلاً فَقَالَ لِعَازِبٍ ابْعَثِ ابْنَكَ يَحْمِلْهُ مَعِي. قَالَ فَحَمَلْتُهُ مَعَهُ، وَخَرَجَ أَبِي يَنْتَقِدُ ثَمَنَهُ، فَقَالَ لَهُ أَبِي يَا أَبَا بَكْرٍ حَدِّثْنِي كَيْفَ صَنَعْتُمَا حِينَ سَرَيْتُمَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ نَعَمْ أَسْرَيْنَا لَيْلَتَنَا، وَمِنَ الْغَدِ حَتَّى قَامَ قَائِمُ الظَّهِيرَةِ، وَخَلاَ الطَّرِيقُ لاَ يَمُرُّ فِيهِ أَحَدٌ، فَرُفِعَتْ لَنَا صَخْرَةٌ طَوِيلَةٌ، لَهَا ظِلٌّ لَمْ تَأْتِ عَلَيْهِ الشَّمْسُ فَنَزَلْنَا عِنْدَهُ، وَسَوَّيْتُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَكَانًا بِيَدِي يَنَامُ عَلَيْهِ، وَبَسَطْتُ فِيهِ فَرْوَةً، وَقُلْتُ نَمْ يَا رَسُولَ اللَّهِ، وَأَنَا أَنْفُضُ لَكَ مَا حَوْلَكَ. فَنَامَ وَخَرَجْتُ أَنْفُضُ مَا حَوْلَهُ، فَإِذَا أَنَا بِرَاعٍ مُقْبِلٍ بِغَنَمِهِ إِلَى الصَّخْرَةِ يُرِيدُ مِنْهَا مِثْلَ الَّذِي أَرَدْنَا فَقُلْتُ لِمَنْ أَنْتَ يَا غُلاَمُ فَقَالَ لِرَجُلٍ مِنْ أَهْلِ الْمَدِينَةِ أَوْ مَكَّةَ. قُلْتُ أَفِي غَنَمِكَ لَبَنٌ قَالَ نَعَمْ. قُلْتُ أَفَتَحْلُبُ قَالَ نَعَمْ. فَأَخَذَ شَاةً. فَقُلْتُ انْفُضِ الضَّرْعَ مِنَ التُّرَابِ وَالشَّعَرِ وَالْقَذَى. قَالَ فَرَأَيْتُ الْبَرَاءَ يَضْرِبُ إِحْدَى يَدَيْهِ عَلَى الأُخْرَى يَنْفُضُ، فَحَلَبَ فِي قَعْبٍ كُثْبَةً مِنْ لَبَنٍ، وَمَعِي إِدَاوَةٌ حَمَلْتُهَا لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَرْتَوِي مِنْهَا، يَشْرَبُ وَيَتَوَضَّأُ، فَأَتَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَكَرِهْتُ أَنْ أُوقِظَهُ، فَوَافَقْتُهُ حِينَ اسْتَيْقَظَ، فَصَبَبْتُ مِنَ الْمَاءِ عَلَى اللَّبَنِ حَتَّى بَرَدَ أَسْفَلُهُ، فَقُلْتُ اشْرَبْ يَا رَسُولَ اللَّهِ ـ قَالَ ـ فَشَرِبَ، حَتَّى رَضِيتُ ثُمَّ قَالَ أَلَمْ يَأْنِ لِلرَّحِيلِ. قُلْتُ بَلَى ـ قَالَ ـ فَارْتَحَلْنَا بَعْدَ مَا مَالَتِ الشَّمْسُ، وَاتَّبَعَنَا سُرَاقَةُ بْنُ مَالِكٍ، فَقُلْتُ أُتِينَا يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَقَالَ لاَ تَحْزَنْ، إِنَّ اللَّهَ مَعَنَا. فَدَعَا عَلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَارْتَطَمَتْ بِهِ فَرَسُهُ إِلَى بَطْنِهَا ـ أُرَى فِي جَلَدٍ مِنَ الأَرْضِ، شَكَّ زُهَيْرٌ ـ فَقَالَ إِنِّي أُرَاكُمَا قَدْ دَعَوْتُمَا عَلَيَّ فَادْعُوا لِي، فَاللَّهُ لَكُمَا أَنْ أَرُدَّ عَنْكُمَا الطَّلَبَ. فَدَعَا لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه

وسلم فَنَجَا فَجَعَلَ لاَ يَلْقَى أَحَدًا إِلاَّ قَالَ كَفَيْتُكُمْ مَا هُنَا. فَلاَ يَلْقَى أَحَدًا إِلاَّ رَدَّهُ. قَالَ وَوَفَى لَنَا.

訳：

アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。アブー・バクルが私の父のところに来て、鞍を一つ買った……。父は言った。「アブー・バクルよ、あなたがアッラーの使徒 ﷺ と夜に旅をしたとき、二人がどうしたのか話してください」。アブー・バクルは言った。**「私たちは一晩中、そして翌日の昼まで進み、道が静まりかえって誰一人通らなくなった。すると、まだ日の当たっていない陰のある長い岩が見えた。私たちはそこに降りた。私は預言者 ﷺ が眠れるよう場所を平らにならし、毛皮を一枚敷いて言った。『お休みください、アッラーの使徒よ。私があたりを見張ります』。預言者が眠り、私は見張りに出た。すると一人の羊飼いが羊を連れてやって来た……。私は尋ねた。『あなたの羊は乳が出るか』。かれは答えた。『はい』。『私たちのために搾ってくれるか』。『はい』。私はかれに羊の乳房のほこりを払わせ、かれは器に少し乳を搾った。私は預言者 ﷺ が飲んだり清めをしたりするための水の器を持っていた。私が預言者のもとへ行くと、起こすのは忍びなかったが、預言者はすでに目を覚ましておられた。私は乳に水を注いで底まで冷やしてから言った。『お飲みください、アッラーの使徒よ』。預言者が飲まれたので、私は満ち足りた気持ちになった……。それから私たちは出発し、スラーカ・ブン・マーリクが私たちを追って来た。私は言った。『追いつかれました、アッラーの使徒よ』。預言者は言われた。『悲しむな。アッラーはわたしたちと共におられる』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ユースフ ← アフマド・ブン・ヤズィード ← ズハイル ← アブー・イスハーク ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ ← アブー・バクル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者性のしるしの章、ハディース第 3615 番。訳は要約している。スラーカの部分は次の章で扱う。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3615

このハディースは、**アブー・バクルの愛情と奉仕**をよく表しています。かれは寝場所をならし、見張りをし、乳のほこりを払い、水で冷やしました。眠っているアッラーの使徒ﷺを起こすことさえ忍びなかったのです。

学者たちは、他人の羊の乳をどうして飲めたのかを論じています。イブン・ハジャルによれば、当時のアラブには**旅人に家畜の乳を飲ませる習慣があり**、羊飼い自身も二人のために搾ることに同意していました。

スラーカ・ブン・マーリク

クライシュ族は、アッラーの使徒 ***seratus ekor unta*** とアブー・バクルの一人につき、生死を問わずラクダ百頭の懸賞をかけました。ムドリジ族の熟練した追跡者**スラーカ・ブン・マーリク・ブン・ジュウシュム**が二人の跡を追いました。かれ自身が、何が起きたかを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3906 番

قَالَ ابْنُ شِهَابٍ وَأَخْبَرَنِي عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَالِكٍ الْمُدْلِجِيُّ ـ وَهُوَ ابْنُ أَخِي سُرَاقَةَ بْنِ مَالِكِ بْنِ جُعْشُمٍ ـ أَنَّ أَبَاهُ، أَخْبَرَه أنه، سَمِعَ سُرَاقَةَ بْنَ جُعْشُمٍ، يَقُولُ جَاءَنَا رُسُلُ كُفَّارِ قُرَيْشٍ يَجْعَلُونَ فِي رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبِي بَكْرٍ دِيَةَ كُلِّ وَاحِدٍ مِنْهُمَا، مَنْ قَتَلَهُ أَوْ أَسَرَهُ، فَبَيْنَمَا أَنَا جَالِسٌ فِي مَجْلِسٍ مِنْ مَجَالِسِ قَوْمِي بَنِي مُدْلِجٍ أَقْبَلَ رَجُلٌ مِنْهُمْ حَتَّى قَامَ عَلَيْنَا وَنَحْنُ جُلُوسٌ، فَقَالَ يَا سُرَاقَةُ، إِنِّي قَدْ رَأَيْتُ آنِفًا أَسْوِدَةً بِالسَّاحِلِ ـ أُرَاهَا مُحَمَّدًا وَأَصْحَابَهُ. قَالَ سُرَاقَةُ فَعَرَفْتُ أَنَّهُمْ هُمْ، فَقُلْتُ لَهُ إِنَّهُمْ لَيْسُوا بِهِمْ، وَلَكِنَّكَ رَأَيْتَ فُلاَنًا وَفُلاَنًا انْطَلَقُوا بِأَعْيُنِنَا. ثُمَّ لَبِثْتُ فِي الْمَجْلِسِ سَاعَةً، ثُمَّ قُمْتُ فَدَخَلْتُ فَأَمَرْتُ جَارِيَتِي أَنْ تَخْرُجَ بِفَرَسِي وَهْيَ مِنْ وَرَاءِ أَكَمَةَ فَتَحْبِسَهَا عَلَيَّ، وَأَخَذْتُ رُمْحِي، فَخَرَجْتُ بِهِ مِنْ ظَهْرِ الْبَيْتِ، فَخَطَطْتُ بِزُجِّهِ الأَرْضَ، وَخَفَضْتُ عَالِيَهُ حَتَّى أَتَيْتُ فَرَسِي فَرَكِبْتُهَا، فَرَفَعَتْهَا تُقَرِّبُ بِي حَتَّى دَنَوْتُ مِنْهُمْ، فَعَثَرَتْ بِي فَرَسِي، فَخَرَرْتُ عَنْهَا فَقُمْتُ، فَأَهْوَيْتُ يَدِي إِلَى كِنَانَتِي فَاسْتَخْرَجْتُ مِنْهَا الأَزْلاَمَ، فَاسْتَقْسَمْتُ بِهَا أَضُرُّهُمْ أَمْ لاَ فَخَرَجَ الَّذِي أَكْرَهُ،

فَرَكِبْتُ فَرَسِي، وَعَصَيْتُ الأَزْلاَمَ، تُقَرِّبُ بِي حَتَّى إِذَا سَمِعْتُ قِرَاءَةَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ لاَ يَلْتَفِتُ، وَأَبُو بَكْرٍ يُكْثِرُ الالْتِفَاتَ سَاخَتْ يَدَا فَرَسِي فِي الأَرْضِ حَتَّى بَلَغَتَا الرُّكْبَتَيْنِ، فَخَرَرْتُ عَنْهَا ثُمَّ زَجَرْتُهَا فَنَهَضَتْ، فَلَمْ تَكَدْ تُخْرِجُ يَدَيْهَا، فَلَمَّا اسْتَوَتْ قَائِمَةً، إِذَا لأَثَرِ يَدَيْهَا عُثَانٌ سَاطِعٌ فِي السَّمَاءِ مِثْلُ الدُّخَانِ، فَاسْتَقْسَمْتُ بِالأَزْلاَمِ، فَخَرَجَ الَّذِي أَكْرَهُ، فَنَادَيْتُهُمْ بِالأَمَانِ فَوَقَفُوا، فَرَكِبْتُ فَرَسِي حَتَّى جِئْتُهُمْ، وَوَقَعَ فِي نَفْسِي حِينَ لَقِيتُ مَا لَقِيتُ مِنَ الْحَبْسِ عَنْهُمْ أَنْ سَيَظْهَرُ أَمْرُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقُلْتُ لَهُ إِنَّ قَوْمَكَ قَدْ جَعَلُوا فِيكَ الدِّيَةَ. وَأَخْبَرْتُهُمْ أَخْبَارَ مَا يُرِيدُ النَّاسُ بِهِمْ، وَعَرَضْتُ عَلَيْهِمِ الزَّادَ وَالْمَتَاعَ، فَلَمْ يَرْزَآنِي وَلَمْ يَسْأَلاَنِي إِلاَّ أَنْ قَالَ أَخْفِ عَنَّا. فَسَأَلْتُهُ أَنْ يَكْتُبَ لِي كِتَابَ أَمْنٍ، فَأَمَرَ عَامِرَ بْنَ فُهَيْرَةَ، فَكَتَبَ فِي رُقْعَةٍ مِنْ أَدِيمٍ، ثُمَّ مَضَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ فَأَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَقِيَ الزُّبَيْرَ فِي رَكْبٍ مِنَ الْمُسْلِمِينَ كَانُوا تِجَارًا قَافِلِينَ مِنَ الشَّأْمِ، فَكَسَا الزُّبَيْرُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبَا بَكْرٍ ثِيَابَ بَيَاضٍ، وَسَمِعَ الْمُسْلِمُونَ بِالْمَدِينَةِ مَخْرَجَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ مَكَّةَ، فَكَانُوا يَغْدُونَ كُلَّ غَدَاةٍ إِلَى الْحَرَّةِ فَيَنْتَظِرُونَهُ، حَتَّى يَرُدَّهُمْ حَرُّ الظَّهِيرَةِ، فَانْقَلَبُوا يَوْمًا بَعْدَ مَا أَطَالُوا انْتِظَارَهُمْ، فَلَمَّا أَوَوْا إِلَى بُيُوتِهِمْ، أَوْفَى رَجُلٌ مِنْ يَهُودَ عَلَى أُطُمٍ مِنْ آطَامِهِمْ لأَمْرٍ يَنْظُرُ إِلَيْهِ، فَبَصُرَ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابِهِ مُبَيَّضِينَ يَزُولُ بِهِمُ السَّرَابُ، فَلَمْ يَمْلِكِ الْيَهُودِيُّ أَنْ قَالَ بِأَعْلَى صَوْتِهِ يَا مَعَاشِرَ الْعَرَبِ هَذَا جَدُّكُمُ الَّذِي تَنْتَظِرُونَ. فَثَارَ الْمُسْلِمُونَ إِلَى السِّلاَحِ، فَتَلَقَّوْا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِظَهْرِ الْحَرَّةِ، فَعَدَلَ بِهِمْ ذَاتَ الْيَمِينِ حَتَّى نَزَلَ بِهِمْ فِي بَنِي عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ، وَذَلِكَ يَوْمَ الاِثْنَيْنِ مِنْ شَهْرِ رَبِيعٍ الأَوَّلِ، فَقَامَ أَبُو بَكْرٍ لِلنَّاسِ، وَجَلَسَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم صَامِتًا، فَطَفِقَ مَنْ جَاءَ مِنَ الأَنْصَارِ مِمَّنْ لَمْ يَرَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُحَيِّي أَبَا بَكْرٍ، حَتَّى أَصَابَتِ الشَّمْسُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلَ أَبُو بَكْرٍ حَتَّى ظَلَّلَ عَلَيْهِ بِرِدَائِهِ، فَعَرَفَ النَّاسُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عِنْدَ ذَلِكَ، فَلَبِثَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَنِي عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ بِضْعَ عَشْرَةَ لَيْلَةً وَأَسَّسَ الْمَسْجِدَ الَّذِي أُسِّسَ عَلَى

التَّقْوَى، وَصَلَّى فِيهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، ثُمَّ رَكِبَ رَاحِلَتَهُ فَسَارَ يَمْشِي مَعَهُ النَّاسُ حَتَّى بَرَكَتْ عِنْدَ مَسْجِدِ الرَّسُولِ صلى الله عليه وسلم بِالْمَدِينَةِ، وَهُوَ يُصَلِّي فِيهِ يَوْمَئِذٍ رِجَالٌ مِنَ الْمُسْلِمِينَ، وَكَانَ مِرْبَدًا لِلتَّمْرِ لِسُهَيْلٍ وَسَهْلٍ غُلاَمَيْنِ يَتِيمَيْنِ فِي حَجْرِ أَسْعَدَ بْنِ زُرَارَةَ، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ بَرَكَتْ بِهِ رَاحِلَتُهُ هَذَا إِنْ شَاءَ اللَّهُ الْمَنْزِلُ. ثُمَّ دَعَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْغُلاَمَيْنِ، فَسَاوَمَهُمَا بِالْمِرْبَدِ لِيَتَّخِذَهُ مَسْجِدًا، فَقَالاَ لاَ بَلْ نَهَبُهُ لَكَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، ثُمَّ بَنَاهُ مَسْجِدًا، وَطَفِقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَنْقُلُ مَعَهُمُ اللَّبِنَ فِي بُنْيَانِهِ، وَيَقُولُ وَهُوَ يَنْقُلُ اللَّبِنَ هَذَا الْحَمَالُ لاَ حَمَالَ خَيْبَرْ هَذَا أَبَرُّ رَبَّنَا وَأَطْهَرْ. وَيَقُولُ اللَّهُمَّ إِنَّ الأَجْرَ أَجْرُ الآخِرَهْ فَارْحَمِ الأَنْصَارَ وَالْمُهَاجِرَهْ. فَتَمَثَّلَ بِشِعْرِ رَجُلٍ مِنَ الْمُسْلِمِينَ لَمْ يُسَمَّ لِي. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ وَلَمْ يَبْلُغْنَا فِي الأَحَادِيثِ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَمَثَّلَ بِبَيْتِ شِعْرٍ تَامٍّ غَيْرِ هذه الآيات

訳：

スラーカ・ブン・ジュウシュムは言った。「**クライシュ族の不信者の使者たちが私たちのところに来て、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルを殺すか捕らえた者には、一人につき血の代償（ラクダ百頭）に相当する懸賞を与えると告げた。私が一族ムドリジ族の集まりに座っていると、一人の男が来て言った。『スラーカよ、私はたった今、海岸にいくつかの人影を見た。ムハンマドとその仲間たちだと思う』。私はまさしくかれらだとわかったが、こう言った。『かれらではない。あなたが見たのは、私たちの前を出て行った誰それと誰それだ』。私はしばらく座ってから家に戻り、女奴隷に命じて丘の陰で私の馬を用意させた。私は槍を取り、裏口から出た……。私は馬を駆って二人に近づいたが、馬がつまずき、私は落ちた。私は占いの矢を引いて、二人に危害を加えるべきかどうかを占ったが、気に入らない答えが出た。私は再び馬に乗り、アッラーの使徒 ﷺ の読誦が聞こえるところまで近づいた――使徒は振り返らず、アブー・バクルはしきりに振り返っていた――すると突然、**私の馬の前脚が二本とも膝まで地面にめり込み、**私は落ちた……。馬が起き上がると、その足跡から煙のような砂ぼこりが空へ立ちのぼった。私は再び占ったが、気に入らない答えが出た。そこで私は安全を保証すると二人に呼びかけ、二人は止まった。私は馬で近づいた。二人に近づくのを阻まれたとき、私**

の心にアッラーの使徒 ﷺ の事業は勝利する**という思いがよぎった。私は使徒に、かれの一族がかけた懸賞とかれらの計画を知らせ、食料を差し出したが、二人は何も受け取らなかった。使徒はただ言われた。『私たちのことを秘密にしておきなさい』。私は安全保障の書状を書いてほしいと願い、使徒はアーミル・ブン・フハイラに命じて革の切れ端に書かせた**」。イブン・シハーブは言った。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは次のように伝えた。アッラーの使徒 ﷺ は、シリアから戻るムスリム商人の隊商の中にいた**アッ＝ズバイル**に出会い、アッ＝ズバイルは使徒とアブー・バクルに白い衣を贈った。マディーナのムスリムたちは、使徒がマッカを出たと聞くと、**毎朝ハッラへ出て使徒を待ち**、真昼の暑さに追われて帰るのだった。ある日、ユダヤ教徒の男が自分の砦の上から、白い衣をまとったアッラーの使徒 ﷺ とその同僚が蜃気楼の中から現れるのを見て叫んだ。「アラブの人びとよ。あなたがたが待ちわびていた大人物が来たぞ」。ムスリムたちはハッラで使徒を迎えようと急いだ。使徒は右に曲がり、**アムル・ブン・アウフ家**のもとに降り立たれた。それは**ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日**であった。アブー・バクルは立って人びとを迎え、アッラーの使徒 ﷺ は黙って座っておられた。使徒を見たことのない人びとはアブー・バクルにあいさつしたが、日差しが使徒に当たり、アブー・バクルが自分の衣で使徒に陰を作ったので、人びとはようやくアッラーの使徒 ﷺ がどなたかわかった。使徒はアムル・ブン・アウフ家のもとに十数夜とどまり、**敬虔さの上に建てられたモスク**を建て、そこで礼拝された。それから使徒はラクダに乗り、人びとがともに歩いた。そして**ラクダはマディーナのアッラーの使徒 ﷺ のモスクの場所でひざまずいた**。そこはアスアド・ブン・ズラーラの後見のもとにある二人の孤児**サフルとスハイル**のナツメヤシの乾燥場であった。使徒は言われた。**「ここが、アッラーが望まれるなら、（われわれの）住まいである」**。使徒は二人の少年を呼んで値段を交渉しようとされたが、かれらは言った。「これはあなたに差し上げます、アッラーの使徒よ」。それから使徒はそこにモスクを建てた。使徒は自ら**日干しれんがを運び**ながら詠われた。**「アッラーよ、真の報いは来世の報い。援助者たちと移住者たちに慈悲をお与えください」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーが前のハディース（第 3905 番）と同じ伝承経路でイブン・シハーブまで伝える：アブドゥッラフマーン・ブン・マーリク ← 父マーリク ← ス

ラーカ・ブン・ジュウシュム رضى الله عنه。後半は イブン・シハーブ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者ﷺと教友たちのマディーナへのヒジュラの章、ハディース第 3906 番。訳の一部は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3906

スラーカについての三つの伝承

伝承	主な細部
ブハーリー 3906（スラーカ自身）	馬がつまずき、次に前脚が膝までめり込んだ。占いの矢。アーミル・ブン・フハイラによる安全保障の書状。
ブハーリー 3615（アブー・バクル）	使徒が祈ると、馬は腹までめり込んだ。スラーカは祈りを求め、追っ手をよそへ向けると約束した。
ブハーリー 3911（アナス）	「その日の初めにはアッラーの預言者の敵であったが、その日の終わりにはかれの守り手となった」

これらの伝承は互いに補い合っています。最も驚くべきは、スラーカの変化です。かれは使徒を**捕らえる**ために出かけたのに、他の追っ手を引き返させる**守り手**となって戻りました。スィーラ書によれば、スラーカは数年後、マッカ征服とフナインの戦いの後にイスラームに入りました。

スィーラの注：ホスローの腕輪

有名な話によれば、アッラーの使徒 ﷺ はスラーカに「ホスローの腕輪をはめたら、あなたはどうなるだろう」と言われ、ウマルの時代に、そのペルシア王の腕輪がスラーカにはめられたといいます。この話は**ムルサル**（伝承経路が途切れている）として伝えられ、**真正なハディース集には見られません。**位置づけを説明したうえで、スィーラの伝承として語ることはできます。

参照：
イブン・ハジャル『イサーバ』、スラーカ・ブン・マーリクの伝記。

ウンム・マアバドの天幕

スィーラ書によれば、旅の途中、ヒジュラの一行はフザーア族の年配の女性**ウンム・マアバド**の天幕に立ち寄りました。売ってもらえる食べ物はないかと尋ねましたが、干ばつの季節で、かのじょには何もありませんでした。

スィーラの注：ウンム・マアバドの羊の話

アッラーの使徒 ﷺ は、弱って群れについて行けない一頭の羊に目を留められました。使徒は許しを求め、アッラーの御名を唱えて祈りながらその乳房をなでられると、**乳が流れ出ました。**使徒はまずウンム・マアバドに満腹するまで飲ませ、次に教友たちに飲ませ、ご自身は最後に飲まれ、さらにかのじょのために器がいっぱいになるまで搾られました。

夫のアブー・マアバドが帰って来て尋ねると、ウンム・マアバドは客人の様子を語りました。それはアラブ文学で**最も有名な預言者 ﷺ の容姿の描写**となりました――輝く顔、美しい人柄、よく通る声、整った話しぶり。

評価：ハーキム（『ムスタドラク』）、タバラーニー、バイハキーが伝えています。ハーキムは伝承経路を真正と評価し、イブン・カスィールはこの話が**互いに補強し合う多くの経路**で伝えられていると述べています。一方、伝承経路を弱いとする研究者もいます。したがって**見解が分かれます**が、スィーラの章で語ることは受け入れられています。

参照：

HadithAnswers「The famous description of Nabi ﷺ by Ummu Ma'bad」。https://hadithanswers.com/the-famous-description-of-nabi-sallallahu-alayhi-wa-sallam-by-ummu-mabad-radiyallahu-anha/

教訓：追われている最中でさえ、アッラーの使徒 ﷺ は**許しなく取ることはなく、最後に飲まれました。**別のハディースで使徒が言われたとおりです。「**人に飲み物を配る者は、最後に飲む者である**」（『サヒーフ・ムスリム』681）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：38 / 77

ハッラでの待ちわび

マディーナには、アッラーの使徒 ﷺ がマッカを出たという知らせが先に届いていました。ブハーリー 3906 の後半は、住民たちの**待ちこがれる思い**を描いています。毎朝かれらは町はずれの黒い岩地**ハッラ**へ出て、真昼の暑さに追われて帰るまで待ち続けました。

ある日、人びとが帰った後、**一人のユダヤ教徒**が自分の砦の上から、白い衣の二人が蜃気楼の中から現れるのを見て叫びました。「**アラブの人びとよ。あなたがたが待ちわびていた大人物が来たぞ**」。ムスリムたちはすぐに武器を取り、使徒を迎えに出ました。

月曜日

使徒は**月曜日**、ラビーウ・アル＝アウワル月にクバーに到着されました（ブハーリー 3906）。月曜日は使徒の生涯で特別な日です。月曜日の断食について尋ねられたとき、使徒は言われました。「**それはわたしが生まれた日であり、わたしが（使徒として）遣わされた――あるいは啓示が下された――日である**」（『サヒーフ・ムスリム』1162）。

使徒に陰を作ったアブー・バクル

マディーナの人びとの多くは、アッラーの使徒 ﷺ を見たことがありませんでした。かれらは年長のアブー・バクルを預言者だと思ってあいさつしました。日差しが使徒に当たると、**アブー・バクルは立ち上がり、自分の衣で使徒に陰を作りました。**そこで人びとは、誰がアッラーの使徒 ﷺ なのかを知ったのです。アブー・バクルは、人びとの思い違いを一瞬たりとも長引かせませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「この人が私に道を示してくれる」

当時マディーナの少年だったアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の到着の様子と、アブー・バクルの非常に賢い答えを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3911 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الصَّمَدِ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ صُهَيْبٍ، حَدَّثَنَا أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَقْبَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْمَدِينَةِ وَهْوَ مُرْدِفٌ أَبَا بَكْرٍ، وَأَبُو بَكْرٍ شَيْخٌ يُعْرَفُ، وَنَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم شَابٌّ لاَ يُعْرَفُ، قَالَ فَيَلْقَى الرَّجُلُ أَبَا بَكْرٍ فَيَقُولُ يَا أَبَا بَكْرٍ، مَنْ هَذَا الرَّجُلُ الَّذِي بَيْنَ يَدَيْكَ فَيَقُولُ هَذَا الرَّجُلُ يَهْدِينِي السَّبِيلَ. قَالَ فَيَحْسِبُ الْحَاسِبُ أَنَّهُ إِنَّمَا يَعْنِي الطَّرِيقَ، وَإِنَّمَا يَعْنِي سَبِيلَ الْخَيْرِ، فَالْتَفَتَ أَبُو بَكْرٍ، فَإِذَا هُوَ بِفَارِسٍ قَدْ لَحِقَهُمْ، فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، هَذَا فَارِسٌ قَدْ لَحِقَ بِنَا. فَالْتَفَتَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ اللَّهُمَّ اصْرَعْهُ. فَصَرَعَهُ الْفَرَسُ، ثُمَّ قَامَتْ تُحَمْحِمُ فَقَالَ يَا نَبِيَّ اللَّهِ مُرْنِي بِمَا شِئْتَ. قَالَ فَقِفْ مَكَانَكَ، لاَ تَتْرُكَنَّ أَحَدًا يَلْحَقُ بِنَا. قَالَ فَكَانَ أَوَّلَ النَّهَارِ جَاهِدًا عَلَى نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَكَانَ آخِرَ النَّهَارِ مَسْلَحَةً لَهُ، فَنَزَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَانِبَ الْحَرَّةِ، ثُمَّ بَعَثَ إِلَى الأَنْصَارِ، فَجَاءُوا إِلَى نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَلَّمُوا عَلَيْهِمَا، وَقَالُوا ارْكَبَا آمِنَيْنِ مُطَاعَيْنِ. فَرَكِبَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ، وَحَفُّوا دُونَهُمَا بِالسِّلاَحِ، فَقِيلَ فِي الْمَدِينَةِ جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ، جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. فَأَشْرَفُوا يَنْظُرُونَ وَيَقُولُونَ جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ، جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ. فَأَقْبَلَ يَسِيرُ حَتَّى نَزَلَ جَانِبَ دَارِ أَبِي أَيُّوبَ، فَإِنَّهُ لَيُحَدِّثُ أَهْلَهُ، إِذْ سَمِعَ بِهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ وَهْوَ فِي نَخْلٍ لأَهْلِهِ يَخْتَرِفُ لَهُمْ، فَعَجِلَ أَنْ يَضَعَ الَّذِي يَخْتَرِفُ لَهُمْ فِيهَا، فَجَاءَ وَهْىَ مَعَهُ، فَسَمِعَ مِنْ نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ رَجَعَ إِلَى أَهْلِهِ، فَقَالَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَىُّ بُيُوتِ أَهْلِنَا أَقْرَبُ. فَقَالَ أَبُو أَيُّوبَ أَنَا يَا نَبِيَّ اللَّهِ، هَذِهِ دَارِي، وَهَذَا بَابِي. قَالَ فَانْطَلِقْ فَهَيِّئْ لَنَا مَقِيلاً. قَالَ قُومَا عَلَى بَرَكَةِ اللَّهِ. فَلَمَّا جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَاءَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ فَقَالَ أَشْهَدُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَّكَ جِئْتَ بِحَقٍّ، وَقَدْ

عَلِمَتْ يَهُودُ أَنِّي سَيِّدُهُمْ وَابْنُ سَيِّدِهِمْ، وَأَعْلَمُهُمْ وَابْنُ أَعْلَمِهِمْ، فَادْعُهُمْ فَاسْأَلْهُمْ عَنِّي قَبْلَ أَنْ يَعْلَمُوا أَنِّي قَدْ أَسْلَمْتُ، فَإِنَّهُمْ إِنْ يَعْلَمُوا أَنِّي قَدْ أَسْلَمْتُ قَالُوا فِيَّ مَا لَيْسَ فِيَّ. فَأَرْسَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلُوا فَدَخَلُوا عَلَيْهِ. فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَا مَعْشَرَ الْيَهُودِ، وَيْلَكُمُ اتَّقُوا اللَّهَ، فَوَاللَّهِ الَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ إِنَّكُمْ لَتَعْلَمُونَ أَنِّي رَسُولُ اللَّهِ حَقًّا، وَأَنِّي جِئْتُكُمْ بِحَقٍّ فَأَسْلِمُوا. قَالُوا مَا نَعْلَمُهُ. قَالُوا لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَهَا ثَلاَثَ مِرَارٍ. قَالَ فَأَىُّ رَجُلٍ فِيكُمْ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ. قَالُوا ذَاكَ سَيِّدُنَا وَابْنُ سَيِّدِنَا، وَأَعْلَمُنَا وَابْنُ أَعْلَمِنَا. قَالَ أَفَرَأَيْتُمْ إِنْ أَسْلَمَ. قَالُوا حَاشَا لِلَّهِ، مَا كَانَ لِيُسْلِمَ. قَالَ أَفَرَأَيْتُمْ إِنْ أَسْلَمَ. قَالُوا حَاشَا لِلَّهِ، مَا كَانَ لِيُسْلِمَ. قَالَ يَا ابْنَ سَلاَمٍ، اخْرُجْ عَلَيْهِمْ. فَخَرَجَ فَقَالَ يَا مَعْشَرَ الْيَهُودِ، اتَّقُوا اللَّهَ، فَوَاللَّهِ الَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ إِنَّكُمْ لَتَعْلَمُونَ أَنَّهُ رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَّهُ جَاءَ بِحَقٍّ. فَقَالُوا كَذَبْتَ. فَأَخْرَجَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。**アッラーの預言者 ﷺ は、アブー・バクルを後ろに乗せてマディーナに来られた。アブー・バクルは人に知られた年配者で、アッラーの預言者 ﷺ は（見た目が）若く、知られていなかった。誰かがアブー・バクルに会うと、こう尋ねた。『アブー・バクルよ、あなたの前にいるこの人は誰ですか』。アブー・バクルは答えた。『この人は私に道を示してくれる人です』。**聞いた人はふつうの道のことだと思ったが、アブー・バクルが意味していたのは**善の道**であった。（スラーカの話は簡単に触れられている。）それからアッラーの預言者 ﷺ はハッラの端に降り立ち、援助者たちに使いを送られた。かれらはやって来てあいさつし、言った。「**お二人とも、安心して、従われる者としてお乗りください**」。かれらは武器を持って使徒を取り囲んだ。マディーナじゅうに「**アッラーの預言者が来られた。アッラーの預言者が来られた**」という声が広がった。人びとは見ようと外へ出て来た。使徒は進み、**アブー・アイユーブの家**のそばに降りられた……。使徒は尋ねられた。「**わたしたちの親族の家で、どれがいちばん近いか**」。アブー・アイユーブは言った。「私の家です、アッラーの預言者よ。これが私の家で、これが私の戸口です」。（このハディースは、その

日にイスラームに入ったユダヤ教の学者**アブドゥッラー・ブン・サラーム**の話へと続く。）

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド ← アブドゥッサマド ← 父アブドゥルワーリス ← アブドゥルアズィーズ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3911 番。訳は要約している。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3911

真実で賢い答え

アブー・バクルは「**この人は私に道を示してくれる人です**」と答えました。この答えは**真実**です——アッラーの使徒 ﷺ はまさに善の道を示す方なのですから。しかし聞き手はふつうの道案内のことだと受け取ったので、旅の途中で使徒の正体は守られました。学者たちはこれを**タアリード**と呼びます。二つの意味をもつ真実の言葉で、うそをつかずに必要に応じて用いるものです。

アブドゥッラー・ブン・サラームの入信

同じハディースは、マディーナのユダヤ教徒の長であり学者でもあった**アブドゥッラー・ブン・サラーム**が、摘んだばかりのナツメヤシの実を持って急いで使徒に会いに来たことを語っています。かれは使徒の話を聞いて**信仰告白をしました**。かれは、自分がイスラームに入ったことをかれらが知る前に、自分について一族に尋ねてほしいと使徒に頼みました。かれらは「われわれの長であり長の息子、最も学識ある者であり最も学識ある者の息子」とかれを称えました。ところが、かれが出て来て入信を表明すると、かれらはすぐさま言いました。「おまえはうそつきだ」。

教訓：真理は、誰が語るかではなく**根拠**によって量られます。アブドゥッラー・ブン・サラームを入信前に称えていた人びとは、かれが真理を選んだとたんにかれを非難したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クバー：最初のモスク

アッラーの使徒 ﷺ は、マディーナの高地（南部）にあるクバーの**アムル・ブン・アウフ家**の集落に滞在されました。そこで使徒はイスラームの**最初のモスクを建てられました**。ウルワは使徒がそこに**十数夜**とどまったと述べ（ブハーリー 3906）、アナスは**十四夜**と述べています（ブハーリー 3932）。「十数夜」には十四夜も含まれるので、両者は一致しています。

アッラーは「**最初の日から敬虔に礎えを定めて建立されたマスジド**」を称えておられます。イブン・カスィールは、この節の文脈（クバーのディラール・モスク）から、これは**クバー・モスク**を指していると説明しています。また真正なハディースでは、アッラーの使徒 ﷺ が**預言者のモスク**についても同じことを述べておられます（『サヒーフ・ムスリム』1398）。どちらも敬虔さの上に建てられたモスクなのです『タフスィール・イブン・カスィール』9:108。

クバー・モスクの徳はその後も続きました。イブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ は**毎週土曜日にクバー・モスクを訪れ**、歩いて行かれることも、乗って行かれることもありました（『サヒーフ・ブハーリー』1193）。

> **スィーラの注：最初の金曜礼拝**
>
> スィーラ書によれば、クバーからマディーナへ向かう途中、使徒はラーヌーナーの谷にある**サーリム・ブン・アウフ家**の集落でムスリムたちとともに**最初の金曜礼拝**を行い、そこで最初の金曜の説教をされました。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ムバーラクフーリー『封印された蜜』。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ が新しい土地で最初に建てられたのは**モスク**でした。モスクはイスラーム共同体の中心――崇拝、学び、兄弟愛の場――なのです。

アブー・アイユーブの家

アッラーの使徒 ﷺ はクバーからラクダに乗ってマディーナへ入られ、**ナッジャール家**の有力者たちがその周りを囲みました。ナッジャール家は、使徒の祖父アブドゥルムッタリブの母方の一族です。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はその光景をよく覚えていました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3932 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ،. وَحَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الصَّمَدِ، قَالَ سَمِعْتُ أَبِي يُحَدِّثُ، حَدَّثَنَا أَبُو التَّيَّاحِ، يَزِيدُ بْنُ حُمَيْدٍ الضُّبَعِيُّ قَالَ حَدَّثَنِي أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ، نَزَلَ فِي عُلْوِ الْمَدِينَةِ فِي حَيٍّ يُقَالُ لَهُمْ بَنُو عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ ـ قَالَ ـ فَأَقَامَ فِيهِمْ أَرْبَعَ عَشْرَةَ لَيْلَةً، ثُمَّ أَرْسَلَ إِلَى مَلإِ بَنِي النَّجَّارِ ـ قَالَ ـ فَجَاءُوا مُتَقَلِّدِي سُيُوفِهِمْ، قَالَ وَكَأَنِّي أَنْظُرُ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى رَاحِلَتِهِ، وَأَبُو بَكْرٍ رِدْفُهُ، وَمَلأُ بَنِي النَّجَّارِ حَوْلَهُ حَتَّى أَلْقَى بِفِنَاءِ أَبِي أَيُّوبَ، قَالَ فَكَانَ يُصَلِّي حَيْثُ أَدْرَكَتْهُ الصَّلاَةُ، وَيُصَلِّي فِي مَرَابِضِ الْغَنَمِ، قَالَ ثُمَّ إِنَّهُ أَمَرَ بِبِنَاءِ الْمَسْجِدِ، فَأَرْسَلَ إِلَى مَلإِ بَنِي النَّجَّارِ، فَجَاءُوا فَقَالَ يَا بَنِي النَّجَّارِ، ثَامِنُونِي حَائِطَكُمْ هَذَا. فَقَالُوا لاَ، وَاللَّهِ لاَ نَطْلُبُ ثَمَنَهُ إِلاَّ إِلَى اللَّهِ. قَالَ فَكَانَ فِيهِ مَا أَقُولُ لَكُمْ كَانَتْ فِيهِ قُبُورُ الْمُشْرِكِينَ، وَكَانَتْ فِيهِ خِرَبٌ، وَكَانَ فِيهِ نَخْلٌ، فَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِقُبُورِ الْمُشْرِكِينَ فَنُبِشَتْ، وَبِالْخِرَبِ فَسُوِّيَتْ، وَبِالنَّخْلِ فَقُطِعَ، قَالَ فَصَفُّوا النَّخْلَ قِبْلَةَ الْمَسْجِدِ ـ قَالَ ـ وَجَعَلُوا عِضَادَتَيْهِ حِجَارَةً. قَالَ قَالَ جَعَلُوا يَنْقُلُونَ ذَاكَ الصَّخْرَ وَهُمْ يَرْتَجِزُونَ، وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَعَهُمْ يَقُولُونَ اللَّهُمَّ إِنَّهُ لاَ خَيْرَ إِلاَّ خَيْرُ الآخِرَهْ فَانْصُرِ الأَنْصَارَ وَالْمُهَاجِرَهْ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。**アッラーの使徒 ﷺ はマディーナに着かれると、マディーナの高地の、アムル・ブン・アウフ家と呼ばれる部族のもとに降り立ち、かれらのもとに十四夜とどまられた。それからナッジャール家の有力者たちを呼ば**

れると、かれらは剣を帯びてやって来た。アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上におられ、アブー・バクルがその後ろに乗り、ナッジャール家の有力者たちが周りを囲んでいる様子が、今も目に浮かぶようだ。そして使徒はアブー・アイユーブの家の中庭に降り立たれた。使徒は礼拝の時刻になると、羊の囲いの中でさえ、どこででも礼拝しておられた。その後、使徒はモスクの建設を命じられた。使徒はナッジャール家の有力者たちを呼んで言われた。「**ナッジャール家の人びとよ、このあなたがたの土地の値段をわたしに言いなさい**」。かれらは答えた。「いいえ、アッラーにかけて、私たちはその代価をアッラーからしか求めません」。そこには多神教徒の墓と、でこぼこの土地と、ナツメヤシの木があった。使徒は墓を掘り起こし、土地をならし、ナツメヤシを切り倒すよう命じられた。ナツメヤシの幹はキブラの壁として並べられ、戸口の両側には石の柱が建てられた。教友たちは歌を詠みながら石を運び、アッラーの使徒 ﷺ もかれらとともにおられた。「**アッラーよ、来世の善のほかに善はありません。援助者たちと移住者たちをお助けください**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーが二つの経路で伝える：ムサッダド ← アブドゥルワーリス、およびイスハーク・ブン・マンスール ← アブドゥッサマド ← 父アブドゥルワーリス — いずれも アブー・タイヤーフ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ と教友たちのマディーナ到着の章、ハディース第 3932 番。ムスリム（第 524 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3932

スィーラの注：「放っておきなさい。命じられているのだから」

スィーラ書によれば、使徒が通りかかった援助者たちの各部族は、使徒のラクダの手綱を押さえて、自分たちのもとに滞在するよう招きました。使徒は答えられました。「**放っておきなさい。このラクダは命じられているのだから**」。ラクダは歩き続け、アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリーの家の近くにある、二人の孤児の**ナツメヤシの乾燥場でひざまずきました。**

真正なハディース（ブハーリー 3906）は、ラクダが預言者のモスクの場所でひざまずき、使徒が「ここが、アッラーが望まれるなら、住まいである」と言われたことを確認しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

アブー・アイユーブの礼儀

アッラーの使徒 ﷺ は、モスクと自分の部屋が建て終わるまで**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضى الله عنه の家に滞在されました。使徒は来客が訪ねやすいよう一階に住むことを選ばれ、アブー・アイユーブと妻は二階に住みました。アブー・アイユーブは**アッラーの使徒** ﷺ の上にいることを心苦しく思い、自分たちが一階へ移り、使徒に二階へ移っていただきました（『サヒーフ・ムスリム』2053）。

教訓：**アッラーの使徒** ﷺ を敬うことは、言葉だけでなく、寝る場所のような小さなことにまで表れます。歴史書によれば、アブー・アイユーブはその後長生きし、コンスタンティノープルの城壁のもとで戦士として亡くなりました。

預言者のモスクの建設

ラクダがひざまずいた土地が、**預言者のモスク**の敷地となりました。真正なハディースは、その建設を詳しく語っています。

建設の細部	典拠
二人の孤児サフルとスハイルのナツメヤシの乾燥場	ブハーリー 3906
ナッジャール家は代金を受け取らなかった：「私たちはその代価をアッラーからしか求めません」	ブハーリー 3932
多神教徒の墓を掘り起こし、土地をならし、ナツメヤシを切り倒した	ブハーリー 3932
ナツメヤシの幹でキブラの壁を作り、戸口の両側に石の柱を建てた	ブハーリー 3932
アッラーの使徒 ﷺ が自ら日干しれんがを運んだ	ブハーリー 3906
アンマールはれんがを一度に二つ運んだ	ブハーリー 447
詩：「アッラーよ、来世の善のほかに善はありません……」	ブハーリー 3906、3932

当時のキブラはまだ**エルサレム**に向いており、カアバへと変わったのは約十六か月あるいは十七か月後のことでした（『サヒーフ・ブハーリー』40）。

ともに働く指導者

アッラーの使徒 ﷺ は、ただ指示を出すだけではありませんでした。使徒は**教友たちとともにれんがを運び**、士気を高めるために詩を詠まれました。アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه によれば、教友たちは一人一個ずつれんがを運んでいましたが、**アンマール・ブン・ヤースィルは二個運び**、使徒はかれのほこりを払ってやられました（『サヒーフ・ブハーリー』447）。

このとき、アッラーが称えられた共同体が生まれました。それは「**（移住して）かれらのもとに来た者を愛護し**」た援助者たちです。移住者と援助者の兄弟の契りの話は、次の巻で語られます『タフスィール・イブン・カスィール』59:9。

マディーナの熱病と預言者の祈り

当時のマディーナは**熱病の流行**で知られていました。到着して間もなく、アブー・バクルやビラールを含む何人かの教友が病に倒れました。アーイシャ رضى الله عنها はかれらを見舞いました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3926 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّهَا قَالَتْ لَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ وُعِكَ أَبُو بَكْرٍ وَبِلاَلٌ ـ قَالَتْ ـ فَدَخَلْتُ عَلَيْهِمَا فَقُلْتُ يَا أَبَتِ كَيْفَ تَجِدُكَ وَيَا بِلاَلُ، كَيْفَ تَجِدُكَ قَالَتْ فَكَانَ أَبُو بَكْرٍ إِذَا أَخَذَتْهُ الْحُمَّى يَقُولُ كُلُّ امْرِئٍ مُصَبَّحٌ فِي أَهْلِهِ وَالْمَوْتُ أَدْنَى مِنْ شِرَاكِ نَعْلِهِ وَكَانَ بِلاَلٌ إِذَا أُقْلِعَ عَنْهُ الْحُمَّى يَرْفَعُ عَقِيرَتَهُ وَيَقُولُ أَلاَ لَيْتَ شِعْرِي هَلْ أَبِيتَنَّ لَيْلَةً بِوَادٍ وَحَوْلِي إِذْخِرٌ وَجَلِيلٌ وَهَلْ أَرِدَنْ يَوْمًا مِيَاهَ مَجَنَّةَ وَهَلْ يَبْدُوَنْ لِي شَامَةٌ وَطَفِيلٌ قَالَتْ عَائِشَةُ فَجِئْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ اللَّهُمَّ حَبِّبْ إِلَيْنَا الْمَدِينَةَ كَحُبِّنَا مَكَّةَ أَوْ أَشَدَّ، وَصَحِّحْهَا وَبَارِكْ لَنَا فِي صَاعِهَا وَمُدِّهَا، وَانْقُلْ حُمَّاهَا فَاجْعَلْهَا بِالْجُحْفَةِ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに着かれたとき、**アブー・バクルとビラールが熱病にかかった**。私はかれらのところへ行って尋ねた。「お父さま、ご気分はいかがですか。ビラールよ、気分はどうですか」。アブー・バクルは熱にうなされると、こう詠った。「人は皆、家族とともに朝を迎える。だが死は、その者のサンダルのひもよりも近くにある」。ビラールは熱が引くと、声を張り上げて詠った。「ああ、もう一夜だけ（マッカの）谷で、イズヒルとジャリールの草に囲まれて夜を過ごせたなら。もう一日だけマジャンナの水を飲めたなら。シャーマとタフィールの山をもう一度見られたなら」。私はアッラーの使徒 ﷺ のところへ行ってそれを伝えると、使徒は祈られた。「**アッラーよ、わたしたちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください。アッラーよ、この地を健やかにし、そのサーとムッド（升）を祝福し、その熱病をジュフファへ移してください**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父ウルワ ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3926 番。ムスリム（第 1376 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3926

マッカへの郷愁

ビラールの詩は、故郷を思う**移住者の切ない思い**を表しています。イズヒルとジャリールの草、マジャンナの水、シャーマとタフィールの山。ヒジュラは容易なことではありません。故郷も家族も思い出も後に残すのです。イスラームはその感情を否定しません––アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、かれらの心に**マディーナへの愛を芽生えさせてくださるよう**アッラーに祈られたのです。

使徒の祈り	その結果
「わたしたちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください」	マディーナは、マッカに次いでムスリムに最も愛される町となった。
「この地を健やかにしてください」	熱病の流行はしだいに消えていった。
「そのサーとムッドを祝福してください」	住民の食べ物と糧に祝福がもたらされた。
「その熱病をジュフファへ移してください」	当時非ムスリムが住んでいたジュフファが、病の多い土地となった。

ヒジュラ暦

ヒジュラはあまりに大きな出来事だったので、教友たちはそれをウンマ（ムスリム共同体）の**年の数え始め**としました。サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は言っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3934 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ سَهْلِ بْنِ سَعْدٍ، قَالَ مَا عَدُّوا مِنْ مَبْعَثِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَلاَ مِنْ وَفَاتِهِ، مَا عَدُّوا إِلاَّ مِنْ مَقْدَمِهِ الْمَدِينَةَ.

訳：

サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は言った。「**かれら（教友たち）は年の数え始めを、預言者 ﷺ が遣わされた時からとも、亡くなられた時からともしなかった。かれらはそれを、使徒がマディーナに来られた時からとしたのである**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・マスラマ ← アブドゥルアズィーズ ← 父アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、暦の始まりの章、ハディース第 3934 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3934

ヒジュラ暦は、**第二代カリフ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه の時代、ヒジュラ暦 17 年（西暦 638 年）ごろに定められました。教友たちは、預言者の誕生、使命の開始、逝去などいくつかの案を話し合いましたが、**ヒジュラ**を選びました。それが、弱い時代と、イスラームが一つの共同体として立った時代とを分けるものだったからです。年の初めは**ムハッラム月**とされました。巡礼から人びとが戻る月だからです。

項目	説明
年の数え方	ヒジュラの年から始まる（ブハーリー 3934）。
制定者	ウマル・ブン・アル＝ハッターブ、ヒジュラ暦 17 年／西暦 638 年ごろ（ウィキペディア）。
第 1 月	ムハッラム月（歴史書）。
ヒジュラ暦 1 年ムハッラム月 1 日	ユリウス暦で西暦 622 年 7 月 16 日にあたる（ウィキペディア）。
本書の年	2026 年 / 1448 AH

資料：ウィキペディア「Hijrah」。

教訓：ヒジュラ暦の年を書くたびに、私たちはアッラーの使徒 ***mengingati pengorbanan*** と教友たちの犠牲を思い起こします。このウンマは自らの歴史を、戦の勝利ではなく、**信仰のための犠牲**によって数えているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

有名な物語とその位置づけ

ヒジュラの出来事は、多くの有名な物語に囲まれています。真正なものもあれば、見解が分かれるものもあり、弱いものやスィーラ書にしか見られないものもあります。次の図と表がそれをまとめています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの物語の位置づけ

真正（14）

- ナツメヤシの茂る移住の地の夢
- アブー・バクルの家での真昼；代金を払ったラクダ
- アスマーと二本の帯
- サウルの洞窟での三夜
- 「二人の三人目がアッラーである」
- アブドゥッラー、アーミル、道案内
- 羊飼いと乳
- スラーカの馬がめり込む
- ハッラでの待ちわび
- 「この人が私に道を示してくれる」
- クバーに14夜；クバー・モスク
- アブー・アイユーブの家；預言者のモスク
- マディーナの熱病と使徒の祈り
- ヒジュラから始まる暦

見解が分かれる（2）

- 寝床のアリー；洞窟のクモ
- ウンム・マアバドの天幕

弱い（2）

- 洞窟の入口でハトが卵を産んだ
- 歌「ターラアル・バドル・アライナー」

スィーラ書のみ（5）

- ナジュドの老人に化けたイブリース
- 使徒が砂をまき、ヤースィーン章を読誦
- ウマルの公然たる移住
- スハイブ：「よい取引をした」
- スラーカに約束されたホスローの腕輪

評価はハディース集と学者の評価による（関連する章を参照）。

図 4：ヒジュラの物語の位置づけ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歌「ターラアル・バドル・アライナー」

歌「**ターラアル・バドル・アライナー、ミン・サニーヤーティル・ワダーア（私たちの上に満月が昇った、別れの峠から）**」は、マディーナの人びとの歓迎の歌としてたいへん有名です。バイハキーが『預言者性の証し』などで伝えていますが、イラーキーとイブン・ハジャルが説明しているように、**その伝承経路は途切れています**。イブン・アル＝カイイムを含む一部の学者は、別れの峠（サニーヤト・アル＝ワダーア）はマッカの方角ではなくシリアの方角にあるので、この歌は使徒が**タブークから戻られたとき**に歌われたのだと考えています。

歓迎について**真正な**のは、「**アッラーの預言者が来られた**」という歓声（ブハーリー 3911）と、マディーナの人びとがアッラーの使徒 ﷺ の到着ほど何かを喜ぶのを見たことがないというアル＝バラーの言葉です（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

物語	位置づけと典拠
移住の地の夢；アブー・バクルの家での真昼；サウルの洞窟での三夜	真正 — ブハーリー 3905
アスマーと二本の帯	真正 — ブハーリー 3905、3907
「二人の三人目がアッラーである」	真正 — ブハーリー 3653；ムスリム 2381
羊飼いと乳；スラーカ	真正 — ブハーリー 3615、3906、3911
ハッラでの待ちわび；月曜日の到着	真正 — ブハーリー 3906
クバー、アブー・アイユーブの家、預言者のモスク	真正 — ブハーリー 3906、3932
マディーナの熱病；ヒジュラ暦	真正 — ブハーリー 3926、3934
寝床のアリー；クモ	見解が分かれる — 『ムスナド・アフマド』3251
ウンム・マアバド	見解が分かれる — ハーキム、タバラーニー
洞窟のハト	弱い — イブン・アサーキル（ガリーブ・ジッダン）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	位置づけと典拠
歌「ターラアル・バドル」	弱い — 伝承経路が途切れている（バイハキー）
ナジュドの老人に化けたイブリース；砂とヤースィーン章；ホスローの腕輪	スィーラ書のみ（イブン・イスハーク；ムルサルの伝承）
ウマルがクライシュ族に挑んで公然と移住した	スィーラ書のみ；伝承経路は弱い。真正なのは、ウマルが二十人とともに来たこと（ブハーリー 3925）

イスラーム以前のヤスリブ

アッラーの使徒 ﷺ が到着する前、のちにアル＝マディーナ・アル＝ムナウワラ（光り輝く町）として知られる町はヤスリブと呼ばれていました。この名はクルアーンに一度だけ、塹壕の戦いのときの偽信者の口を通して出てきます。「ヤスリブ（アル・マディーナ）の民よ」（部族連合章 33:13）。アッラーの使徒 ﷺ ご自身はそれをマディーナと名づけられました。「わたしは、ほかの町々を凌ぐ町へ（移住するよう）命じられた。人びとはそれをヤスリブと呼ぶが、それはアル＝マディーナである」（『サヒーフ・ブハーリー』1871）。

溶岩の大地、谷、井戸

ヤスリブはマッカのような砂漠の町ではありません。ヒジャーズの高原にある肥沃なオアシスで、**ハッラ**と呼ばれる二つの黒い溶岩原――東のワーキムのハッラと西のワブラのハッラ――に挟まれています。ハディースでは、この二つのハッラのあいだの地域は「ラーバタイン」と呼ばれ、アッラーの使徒 ﷺ はそのあいだの地域を聖域とされました（『サヒーフ・ブハーリー』1873）。だからこそ到着の日、マディーナの人びとは毎朝ハッラで使徒を待っていたのです（ブハーリー 3906）。

いくつかの谷（ワーディー）が雨水を町に流し込み、地下水も浅いところにありました。そのためヤスリブはナツメヤシの園と井戸で知られていました。真正なハディースに出てくるものの一つに、預言者のモスクの向かいにあったアブー・タルハのバイルハーの園があります。アッラーの使徒 ﷺ はよくそこに入り、その良い水を飲まれました（『サヒーフ・ブハーリー』1461）。住民も、クライシュ族のような隊商の商人ではなく、農民や職人でした。

アウスとハズラジュ

ヤスリブのアラブ住民は、**アウス**と**ハズラジュ**という二つの大部族から成っていました。系譜学者によれば、両者は兄弟部族で、どちらもカイラの子孫であり、イエメンの出身です。しかし何世代にもわたり、受け継がれた恨みのために互いに戦っ

てきました。アブドゥルムッタリブの母方の一族であるナッジャール家はハズラジュの一支族で、そのためアッラーの使徒 ﷺ はマディーナに親族のつながりをもっていたのです（「アブー・アイユーブの家」の章参照）。

両者の最後で最も激しい戦いは、ヒジュラの数年前、西暦 617 年ごろの**ブアースの戦い**でした。アウスが勝ちましたが、双方の有力者が多数殺され、両部族は流血に疲れ果てていました（ウィキペディア「Yawm al-Bu'ath」）。アーイシャ رضى الله عنها は、この出来事の背後に大きな英知を見ていました。

> **ハディース：ブアースの日**
>
> アーイシャ رضى الله عنها は言った。「ブアースの日は、アッラーがご自分の使徒 ﷺ のために前もって用意された日でした。アッラーの使徒 ﷺ が（マディーナに）来られたとき、かれらの集団は分裂し、有力者たちは殺されたり傷ついたりしていました。アッラーは、かれらがイスラームに入るよう、それをご自分の使徒 ﷺ のために前もって用意されたのです」。
>
> 等級：真正（サヒーフ）— 『サヒーフ・ブハーリー』3777。

アッラーは援助者たちにこの恵みを思い起こさせておられます。「そしてあなたがたに対するアッラーの恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである」（イムラーン家章 3:103）。イブン・カスィールは、この節の文脈が、かつてたびたび戦い、イスラームによって一つにされたアウスとハズラジュにかかわると述べています（『タフスィール・イブン・カスィール』3:103）。

ユダヤ教徒の部族

ヤスリブには、いくつかのユダヤ教徒の部族も住んでいました。大きなものは**カイヌカー族**（町の市場の金細工師や商人）、**ナディール族**と**クライザ族**（南部のナツメヤシ園と砦の所有者）です。ブアースの戦いでは、クライザ族とナディール族は

アウスと、カイヌカー族はハズラジュと同盟しました（ウィキペディア）。かれらは啓典の民で、遣わされるべき一人の預言者についてよく語っていました。そのため、アウスとハズラジュの人びとにとって預言者という考えは耳慣れないものではありませんでした。かれらがどのようにしてヤスリブに来たかについては不確かな伝承がさまざまにあり、ここでは扱いません。

集団	概要
アウス	アラブの部族。ブアースの戦いで勝利。のちの指導者の一人：サアド・ブン・ムアーズ。
ハズラジュ	アラブの部族。ナッジャール家（アブー・アイユーブの一族）を含む。のちの指導者の一人：サアド・ブン・ウバーダ。
カイヌカー族	ユダヤ教徒の部族。金細工と市場。ハズラジュの同盟者。
ナディール族	ユダヤ教徒の部族。農園と砦。アウスの同盟者。
クライザ族	ユダヤ教徒の部族。農園と砦。アウスの同盟者。

教訓

アッラーは、ご自分の使徒が到着する前に移住の地を整えておられました。戦いに疲れた二つの部族、移住者を受け入れられるオアシス、そして預言者について聞き慣れた社会です。イスラームのもとでのアウスとハズラジュの和合は、信仰によって心が一つにされれば、数十年の恨みも消えうることを証明しています。

ヒジュラの道筋の場所

真正なハディースはヒジュラの主な場所を挙げていますが、距離は示していません。以下の距離は地理資料による現代の推定値で、あくまで目安です。使徒の実際の道筋はふつうの道ではありませんでした。マッカ南方のサウルの洞窟から、道案内はかれらを紅海の海岸の方へ導き、それから人の通らない谷を北へ進み、最後に東へ折れてクバーへ向かいました。その旅は洞窟を出てからおよそ八日かかりました（AramcoWorld「Hijrah: A Journey that Changed the World」）。

場所	位置・距離（推定）	出来事と典拠
アブー・バクルの家（マッカ）	マッカのマスファラ地区（現在はマスジド・ハラームの開発区域内）	使徒は真昼に来訪し、裏口から出た — ブハーリー 3905
サウルの洞窟（サウル山）	マスジド・ハラームの南約 4km。山頂は標高約 750m	三夜身を隠した — ブハーリー 3905；悔悟章 9:40
海岸の道（サーヒル）	西へ紅海の海岸の方へ向かい、それから北へ	道案内が海岸の道を選んだ — ブハーリー 3905
クダイド（ウンム・マアバドの天幕）	マッカとマディーナを結ぶ道の途中、フザーア族の地（正確な距離は不明）	ウンム・マアバドの羊の話 — ハーキム（見解が分かれる）
ムドリジ族の地域	マッカ北方の海岸の道沿い	スラーカ・ブン・マーリクの追跡 — ブハーリー 3906
ハッラとクバー	クバーは預言者のモスクの南約 3.5km	マディーナの人びとの待ちわび；最初のモスク — ブハーリー 3906；悔悟章 9:108
サーリム・ブン・アウフ家（金曜モスク）	クバーから約 1km、預言者のモスクから約 2.5km	最初の金曜礼拝 — イブン・ヒシャーム
アブー・アイユーブの家	預言者のモスクの敷地の隣（現在はモスクの区域内）	ラクダがひざまずき、使徒が滞在した — ブハーリー 3911、3932

距離の資料：Discover Makkah「Mount and Cave of Thawr」；ウィキペディア「Quba Mosque」；Islamic Landmarks「Masjid Jummah」。

サウルの洞窟

サウル山はマッカの南、マディーナとは反対の方角にあります。山頂近くの洞窟への登りは急で岩だらけで、今日でも健康な大人で一時間ほどかかります。当時五十歳を超えていたアッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルの旅がいかに厳しかったか、そして毎晩食料を運んだアスマーの務めがいかに重かったかがわかります。

クバーと金曜モスク

クバーは、マディーナ南部にある（アウス族の）アムル・ブン・アウフ家の集落です。そこで数日過ごした後、使徒は町の中心へと移られました。サーリム・ブン・アウフ家の集落で金曜の時刻が来たので、使徒はその谷でムスリムたちとともに最初の金曜礼拝を行われました。現在、金曜モスク（マスジド・アル＝ジュムア）またはサーリム家のモスクとして知られるモスクがその場所に建っています。この細部は『サヒーフ・ブハーリー』ではなく、スィーラ書（イブン・ヒシャーム；『封印された蜜』）によるものです。

教訓

ヒジュラの旅の方向――まず南へ、次に海岸へ、そして北へ――は、敵を惑わすための綿密な計画でした。これらの場所を知るとスィーラはいっそう生き生きとしますが、クバー・モスクを除いて、これらの場所で定められた特別な崇拝行為はありません。クバー・モスクの徳は真正なハディースで確立されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの人物

ヒジュラは一人の英雄の物語ではありません。男性も女性も、老人も若者も、ムスリムも非ムスリムも、多くの人が役割を果たしました。次の表は、本書に登場する人物をまとめたものです。

人物	役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	ヒジュラの同行者。二頭のラクダを用意し、四か月待った	ブハーリー 3905；悔悟章 9:40
アリー・ブン・アビー・ターリブ	使徒の寝床で眠った。預かり物を返した	スィーラ書；『ムスナド・アフマド』3251（見解が分かれる）
アスマー・ビント・アビー・バクル	食料を運んだ。「二本の帯の人」	ブハーリー 3905、3907
アーイシャ・ビント・アビー・バクル	アブー・バクルの家での出来事の目撃者。ヒジュラのハディースの伝承者	ブハーリー 3905
アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル	洞窟で夜を過ごし、クライシュ族の情報を届けた	ブハーリー 3905
アーミル・ブン・フハイラ	アブー・バクルの羊飼い。足跡を消し、乳を届けた	ブハーリー 3905
アブドゥッラー・ブン・ウライキト	ディール族の熟練した道案内。ムスリムではなかったが誠実だった	ブハーリー 3905（名前はスィーラ書による）
スラーカ・ブン・マーリク	懸賞目当ての追跡者から守り手へ。のちにイスラームに入った	ブハーリー 3906
ウンム・マアバド・アル＝フザーイーヤ	天幕で一行をもてなした女性	ハーキム；バイハキー（見解が分かれる）
ムスアブ・ブン・ウマイル	ヒジュラの前にマディーナに着いた最初の宣教者	ブハーリー 3925

人物	役割	典拠
クルスーム・ブン・アル＝ヒドム	クバーでの使徒の宿の主人	スィーラ書（イブン・ヒシャーム）
アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー	マディーナでの使徒の宿の主人	ブハーリー 3911；ムスリム 2053
アブドゥッラー・ブン・サラーム	使徒の到着後すぐにイスラームに入ったユダヤ教の学者	ブハーリー 3911

教訓

ヒジュラの成功は、多くの人の協力から生まれました。一人ひとりにそれぞれの役割がありました。勇敢な者、秘密を守る者、食べ物を運ぶ者、道に通じた者。今日の宣教の働きにおいても、誰もが何かしらの貢献をすることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの年表

以下の日付は、スィーラ書、とりわけ『封印された蜜』によります。いくつかの日付、とくにマッカを出た日とクバーに着いた日については、学者の見解が分かれています。一致しているのは、使徒がラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日にマディーナに到着されたことです。

時期	出来事	典拠
預言者としての使命の第13年、ズル・ヒッジャ月	ミナーでの第二次アカバの誓い	第6巻；スィーラ書
ムハッラム月〜サファル月	教友たちが少人数の集団で移住	ブハーリー 3925；スィーラ書
サファル月の終わり	ダール・アン＝ナドワの陰謀；使徒の家の包囲	戦利品章 8:30；スィーラ書
同じ夜	使徒とアブー・バクルが出発し、サウルの洞窟へ向かう	ブハーリー 3905
三夜	サウルの洞窟に身を隠す	ブハーリー 3905
四日目	道案内とともに海岸の道を出発	ブハーリー 3905
旅の途中	羊飼い；ウンム・マアバド；スラーカ	ブハーリー 3615、3906；ハーキム
月曜日、ラビーウ・アル＝アウワル月（西暦622年）	クバーに到着し、アムル・ブン・アウフ家のもとに滞在	ブハーリー 3906
クバーでの数日	クバー・モスクを建てる	ブハーリー 3906；悔悟章 9:108
金曜日	サーリム家で最初の金曜礼拝；マディーナに入る	スィーラ書
その後	アブー・アイユーブの家に滞在；預言者のモスクを建てる	ブハーリー 3906、3932

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 17 年ごろ（西暦 638 年）	ウマルがヒジュラ暦を定める	ブハーリー 3934；ウィキペディア

注：ブハーリー 3906 は使徒がアムル・ブン・アウフ家のもとに「十数夜」とどまったと述べ、アナスの伝承（ブハーリー 3932）は十四夜と述べますが、イブン・イスハークは四日と述べています。これは真正なハディースとスィーラの伝承との違いの一例で、より確かなのは『サヒーフ・ブハーリー』の伝承です。

教訓

年表は、ヒジュラが性急な行動ではなかったことを示しています。それは数か月かけて段階的に進みました。誓い、教友たちの移住、アブー・バクルの準備、そして使徒ご自身の旅。大きな変化には、長い計画と忍耐が必要なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラについてのよくある質問

1. なぜアッラーの使徒ﷺはもっと早く移住されなかったのですか。

使徒はアッラーの許しを待っておられました。アブー・バクルが移住の許しを求めると、使徒は「待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから」と言われました（ブハーリー 3905）。また、まず教友たちが無事に着くことを確かめられました。

2. なぜ使徒は夜に出発し、南へ向かわれたのですか。

クライシュ族を惑わすためです。かれらは使徒が北、つまりマディーナの方へ向かうと予想していました。サウルの洞窟はマッカの南、その反対の方角にあります（ブハーリー 3905）。

3. 使徒はサウルの洞窟にどれくらいおられたのですか。

アーイシャのハディースにあるとおり、三夜です（ブハーリー 3905）。アブドゥッラー・ブン・アビー・バクルが二人とともに夜を過ごし、夜明け前にマッカへ戻りました。

4. 洞窟のクモとハトの話は真正ですか。

いいえ。クモの話は『ムスナド・アフマド』に見解の分かれる伝承経路で伝えられ、ハトの話は弱いものです。確かなのは、悔悟章 9:40 でアッラーが仰せのとおり、アッラーの守りがあったことです（「クモとハト」の章参照）。

5. ヒジュラの道案内は誰で、ムスリムだったのですか。

道に通じたディール族の男で、当時はまだクライシュ族の宗教を奉じていました（ブハーリー 3905）。スィーラ書はかれをアブドゥッラー・ブン・ウライキトと呼んでいます。これは、誠実な非ムスリムの助けを借りてよいことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. スラーカはどうして守り手になったのですか。

一行に近づくたびに、かれの馬の脚が何度も地面にめり込みました。かれは安全を求め、一行の消息を秘密にすると約束しました。かれは帰って行き、その方角を捜しに来る者を追い返しました（ブハーリー 3906）。

7. 使徒はいつ、何曜日に到着されたのですか。

ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日です（ブハーリー 3906）。使徒は月曜日に生まれ、月曜日に遣わされ、月曜日に亡くなられました。その月の正確な日付については、スィーラ書のあいだで見解が分かれています。

8. イスラームで最初に建てられたモスクはどこですか。

クバー・モスクです。アッラーはこれを「最初の日から敬虔に礎えを定めて建立されたマスジド」と称えておられます（悔悟章 9:108）。そこでの礼拝は推奨されており、使徒は毎週土曜日にそこを訪れておられました（ブハーリー 1193）。

9. 使徒の最初の金曜礼拝はどこで行われたのですか。

スィーラ書によれば、クバーとマディーナのあいだにあるサーリム・ブン・アウフ家の集落です。現在そこには金曜モスクが建っています。

10. なぜ使徒のラクダはナッジャール家の土地でひざまずいたのですか。

使徒は「放っておきなさい。このラクダは命じられているのだから」と言われました――ラクダはアッラーの命令に従って歩いたのです。ラクダはのちに預言者のモスクとなる場所、アブー・アイユーブの家の近くでひざまずきました。使徒はアブー・アイユーブの家に滞在されました（ブハーリー 3906、3911；ムスリム 2053）。「命じられているのだから」という言葉はスィーラ書によるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

11. なぜイスラーム暦は預言者ﷺの誕生ではなく、ヒジュラから始まるのですか。

教友たちは、使徒の誕生、使命の開始、逝去からではなく、使徒のマディーナへの到着から年を数え始めました（ブハーリー 3934）。ヒジュラはイスラームの共同体と国家の出発点だからです。歴史書によれば、ムハッラム月が年の初めとされたのは、巡礼の季節の後の最初の月だからです。

12. ヒジュラは今日も存在するのですか。

マッカからマディーナへのヒジュラは、マッカ征服の後に終わりました。「（マッカの）征服の後にヒジュラはない。しかしジハードと意図はある」（ブハーリー 2783）。しかし、より広い意味のヒジュラは残っています。「移住者とは、アッラーが禁じたものを捨てる者である」（ブハーリー 10）。

教訓

これらの質問は、真正なものと有名なものとを区別することがいかに大切かを示しています。真正なヒジュラの物語は、それだけで十分に美しく、信仰を揺り動かすものであり、弱い伝承を付け加える必要はないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マディーナへのヒジュラは、時代を超えた**教訓**をもたらしています。

出来事	教訓
教友たちが先に移住した	指導者は従う者の安全を守る。
アブー・バクルが四か月待った	忠誠と周到な準備。
預かり物が返された	敵に対してさえ信頼を守る。
綿密な計画	アッラーへの信頼は努力から始まる。
「アッラーはわたしたちと共におられる」	落ち着きは、アッラーへの確信から生まれる。
アスマーとアーイシャ	女性は宣教で大きな役割を担う。
多神教徒の道案内	宗教を問わず、誠実な人の専門知識を借りる。
スラーカが守り手になった	今日の敵は明日の友かもしれない。
まずモスクが建てられた	モスクは共同体の中核である。
マディーナのための祈り	アッラーのために尽くす土地を愛する。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

結び

ヒジュラは、アブー・バクルの家での**灼熱の真昼**と、**狭い洞窟**での三夜に始まり、マディーナでの**喜びの歓声**と預言者のモスクの**最初のれんが**で終わりました。サウルの洞窟で追われていた二人が、その旅から年を数える一つのウンマの礎となったのです。アッラーの約束はまことです。「**アッラーの御言葉をも高められた**」

アッラーが望まれるなら、『**預言者伝（スィーラ）**』は**マディーナ共同体の建設**――移住者と援助者の兄弟の契り、マディーナ憲章、キブラの変更――へと続きます。アッラーこそ最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（2:207；4:100；8:30；9:40；9:108；16:41；59:9）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/40

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1、10、40、447、1193、3615、3653、3654、3905、3906、3907、3911、3925、3926、3932、3934。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』681、1162、1398、2053、2381。https://sunnah.com/muslim

『ムスナド・アフマド』3251；ハーキム『ムスタドラク』（ウンム・マアバドのハディース）；バイハキー『預言者性の証し』。

スィーラ書と伝承の評価

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）――ヒジュラの章。

サフィーユッラフマーン・ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――アッラーの使徒 ﷺ のヒジュラの章。

イブン・カスィール『始まりと終わり』第 3 巻――ヒジュラ。

Islamland、ファトワー6863：洞窟のクモとハトの伝承。https://www.islamland.com/tuk/fatawas/6863

HadithAnswers「Authenticity of the famous nashid Tala‘al Badru ‘Alayna」。https://hadithanswers.com/authenticity-of-the-famous-nashid-talaal-badru-alayna/

HadithAnswers「The famous description of Nabi ﷺ by Ummu Ma‘bad」。https://hadithanswers.com/the-famous-description-of-nabi-sallallahu-alayhi-wa-sallam-by-ummu-mabad-radiyallahu-anha/

ウィキペディア「Hijrah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hijrah

ウィキペディア「Quba Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Quba_Mosque

ウィキペディア「Al-Masjid an-Nabawi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Masjid_an-Nabawi

ウィキペディア「Islamic calendar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Islamic_calendar

場所、歴史、補足のハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3777（ブアースの日）。https://sunnah.com/bukhari:3777

『サヒーフ・ブハーリー』1871（ヤスリブはマディーナである）。https://sunnah.com/bukhari:1871

『サヒーフ・ブハーリー』1873（二つのハッラのあいだ）。https://sunnah.com/bukhari:1873

『サヒーフ・ブハーリー』1461（バイルハーの園）。https://sunnah.com/bukhari:1461

『サヒーフ・ブハーリー』2783（マッカ征服の後にヒジュラはない）。https://sunnah.com/bukhari:2783

イブン・カスィール『タフスィール』3:103。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/103

ウィキペディア「Yawm al-Bu'ath」。https://en.wikipedia.org/wiki/Yawm_al-Buath

ウィキペディア「Banu Aws」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Aws

Discover Makkah「Mount and Cave of Thawr」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/landmarks/mount-and-cave-of-thawr

Islamic Landmarks「Masjid Jummah」。https://www.islamiclandmarks.com/madinah-other/masjid-jummah

AramcoWorld「Hijrah: A Journey that Changed the World」。https://www.aramcoworld.com/articles/2023/hijrah-a-journey-that-changed-the-world

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

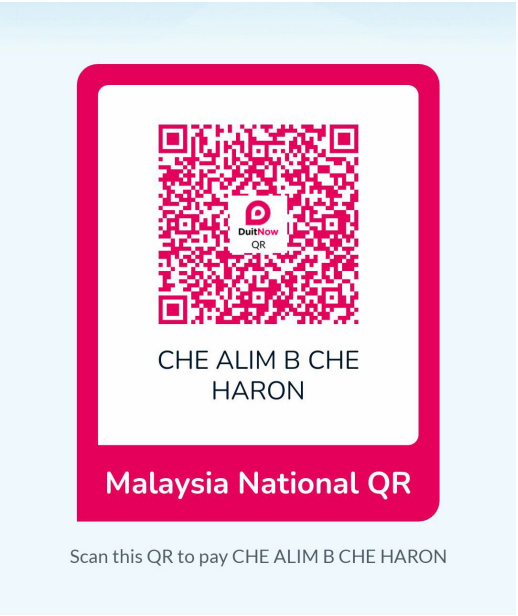
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience